

文部科学省初等中等教育局委託事業

令和4年度「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

高等学校通信制課程における、生徒のICT活用支援体制の構築

～ICT活用パーソナルチューター導入による効果の検証～

成果報告書

学校法人野田鎌田学園

あずさ第一高等学校

目次

ページ数

I	はじめに	1
II	事業計画	
1.	調査研究機関等名	2
2.	実証研究の名称	2
3.	研究対象校	2
4.	令和4年度の実証研究の実施期間	2
5.	調査研究のテーマを設定するにあたり、社会背景や事業の必要性について	2
6.	調査研究の目的	2
7.	調査研究の内容	3
8.	事業の成果と評価の基準となる指標（定性・定量的）	6
9.	調査研究の実施体制	6
III	研究報告	
1.	令和4年度事業実施日程	7
2.	検討会議について	7
3.	ICT活用パーソナルチューターの活動について	11
4.	アンケート調査結果	18
5.	心理的支援について	32
IV	まとめ・今後の課題、引用参考文献等	41

I. はじめに

あずさ第一高等学校は、学校法人野田鎌田学園が平成17年に千葉県認可のもと設置した高等学校で、現在、広域通信制課程として16都道府県を「教育を行う区域」としている。在籍生徒数は、2908名（令和4年5月1日現在）であり、学習するスタイル（通学型や教育連携校在籍等）も多種多様である。

スクールカウンセラーを常勤で5名、非常勤で6名（公認心理師・臨床心理士）配置しており、またスクールソーシャルワーカー2名（1名SC兼務常勤、1名非常勤、社会福祉士・精神保健福祉士）を職員組織として位置づけ効果的な運用を始めるとともに、学校の持つ福祉的機能の充実を図ってきた。

コロナ禍において、オンライン授業（オンデマンド型＝以下「WEB授業動画」とよぶ）の配信（2年目）、一人の生徒もICT活用から取り残されない学校運営に努力するため、調査研究に積極的に取り組むこととした。

多様な生徒にICT活用を学校教育の現場に実現する際、生徒の実態と学校の取組に大きな差異が生じる。少し手を差し伸べるだけで生徒の学習が円滑にいくケースを観察することが多く、また、そのタイミングで、きめ細かいフォローがないと自己肯定感の少ない生徒はあきらめてしまう傾向がある。これらの場面を経験し、丁寧な指導の必要性がわかっているにもかかわらず諸般の事情で一歩が踏み出せない教員に代わり、「ICT活用パーソナルチューター」配置で改善を試みることを意図した研究である。

「ICT活用パーソナルチューター」が、生徒がどこでつまづき、どう解決できるかのコーディネーターとして機能すればICT活用を真の実のある支援として具体的実践を得ることになる。これらによって、通信制課程に関わる教員の業務が一層明確になり改善につながることを期待している。

本校と同様に、多様性に応じた学び支援を模索中の他校の参考にできれば、また、他校間の相互のフィードバックに活用し、本学園のみならず全国の通信制高等学校の質向上につながれば幸いである。

今年度は、「ICT活用パーソナルチューター」の運用を試行として実践し、課題点などの収集と整理を試みた。また、多様な生徒の実態と多様なニーズの把握を、今年度についても生徒向けアンケート等の実施で試みた。

具体的には、昨年度に引き続き、今年度の「ICT活用パーソナルチューター」業務については、通信制の学びの仕組みを良く知っている本校の卒業生3名が、中心となり行った。また、「心理的支援からサポートできるSCまたはこれに準じる者」の役割について、効果の検証等を今年度も引き続き深めた。

生徒支援への効果的な業務内容を、既存の職員に校務分掌の内容として実践し、吸収・還元していく方針のもと、ICT活用担当を校務分掌で位置付けた。

II. 事業計画

1. 調査研究機関等名

学校法人野田鎌田学園

2. 実証研究の名称

高等学校通信制課程における、生徒の ICT 活用支援体制の構築

～ICT 活用パーソナルコンピューター導入による効果の検証～（※令和 3 年度に続き、2 年目の取組）

3. 研究対象校

学校名：あずさ第一高等学校

課程：通信制

学科：普通科

4. 令和 4 年度の実証研究の実施期間

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 3 1 日

5. 調査研究のテーマを設定するにあたり、社会背景や事業の必要性について

新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明で予測困難な時代となっているなかで、これからの Society 5.0 時代を見据え、学校教育の質を高めるツールとして先端技術を積極的に取り入れることや ICT 活用についてもフル活用が求められている。

一方、高等学校通信教育の質保証も一層求められつつ、現場では具体的な生徒の実態に即した、取り組みが必要となっている。不登校経験者などが多い生徒層としては、学習面での遅れは否めない中、全ての子供たちの可能性を引き出すために、個別最適な学びや協働的な学びの実現を図っていく必要がある。

高等学校の課程別の入学生数では、全日制・定時制が減少するのとは逆に通信制課程は増加傾向が続いている。通信制課程の使命ともいえる、『学ぶ意欲があれば、だれでも、どこでも、いつでも学べる』教育機会の提供が求められているためである。通信制課程に在籍する多様な学習ニーズを持つ生徒への適切なかかわり方を先行研究する意義と必要性がある。

※詳細は、令和 3 年度同成果報告書参照

6. 調査研究の目的

令和 3 年度同成果報告書に記載した 3 か年の目的のうち、特に、今年度は、以下を目的とした。

- (1) 高等学校通信制の教育内容の質向上のため、ICT 活用の積極的活用を図る際、生徒がどのような局面で困難を生じているのかについて事象を取集・分析し把握する。
- (2) ICT 活用パーソナルコンピューター導入により、通信制課程の「学習の励まし」を中心とした支援体制を構築する。

上記の具体的な目的を総合して、新しい教育業務体制としての校務分掌を構築する際の基礎データとする。

7. 調査研究の内容

(1) 教育課程上の位置づけ

令和4年度については、新教育課程の1年次生用に「現代の国語」「言語文化」「地理総合」「歴史総合」「公共」「基礎数学(学校設定科目)」「情報Ⅰ」「生物基礎」「英語コミュニケーションⅠ」「書道Ⅰ」「体育」「保健」等のWEB授業動画を配信、旧課程の2年次生向けに「古典B」「日本史B」「倫理」「数学Ⅰ」「化学基礎」「英語コミュニケーションⅡ」「体育」「保健」「家庭基礎」等のWEB授業動画配信を実施している。

(2) 実施場所

あずさ第一高等学校本校他、学習等支援施設(キャンパス)7か所、計8か所
本学園の高等専修学校3校

野田鎌田学園高等専修学校 野田鎌田学園杉並高等専修学校 野田鎌田学園横浜高等専修学校

以上の3校の在籍生徒は、高等専修学校生徒であるとともに、あずさ第一高等学校通信制の生徒として在籍しており、教育連携している。

(3) 調査研究の内容・方法

上記実施場所で学習をしている生徒について、ICT活用パーソナルチューター導入による効果を調査の対象とする。

- 「ICT活用パーソナルチューター」の運営を試行して、課題等を整理する。
- 生徒と職員の意識調査についてもICTを活用して、情報収集をする。

(4) ICT活用パーソナルチューターの具体的役割について

委託事業2年目にあたる令和4年度については、以下の試行を進める。

- 通信制課程では、時間的空間的に、教員と生徒との接点が比較的少ない現状があり、「ICT活用パーソナルチューター」の存在で、心理的支援等の関係性を深める業務。本事業の人件費から採用できる臨時雇用職員(本校の卒業生)としての非常勤職員での業務分担を計画した。
- 本校のSC職員が中心となり、(ICT活用パーソナルチューターの役割を意識して)「心理的支援からサポートできるSCまたはこれに準じる者」による、ICT活用した支援の可能性について、研究を行った。

(5) 「ICT活用パーソナルチューター」の概念(※令和5年度に向けて要検討部分)

表1 「パーソナルチューターとICT活用パーソナルチューターの違い

1 名称	(従来)のパーソナルチューター	ICT活用パーソナルチューター
2 導入時期	H15ごろから	R4から
3 導入対象	3部制の定時制の完全単位制に在籍する生徒へ	単位制かつ通信制に在籍生徒
4 導入目的	相談体制強化で中途退学防止対策	多様性に応じた新時代の学び充実支援
5 導入高校	公立の三部制の定時制高校他	あずさ第一高校
6 運営担当	各校教育相談室等	文科省委託事業検討委員会
7 生徒からの希望制	チューターの自己紹介シート掲示物を閲覧後希望登録票提出	チューターの得意分野一覧からオンライン検索※
8 登録チューター職員	全教員	卒業生(非常勤職員)、登録希望教員
9 運用時期	原則通年	相談・利用希望毎(ワントائم)
10 相談形態	対面・面接	オンライン・指定PC使用

(6) 令和4年度の運用の試行の概念図と運用の様子

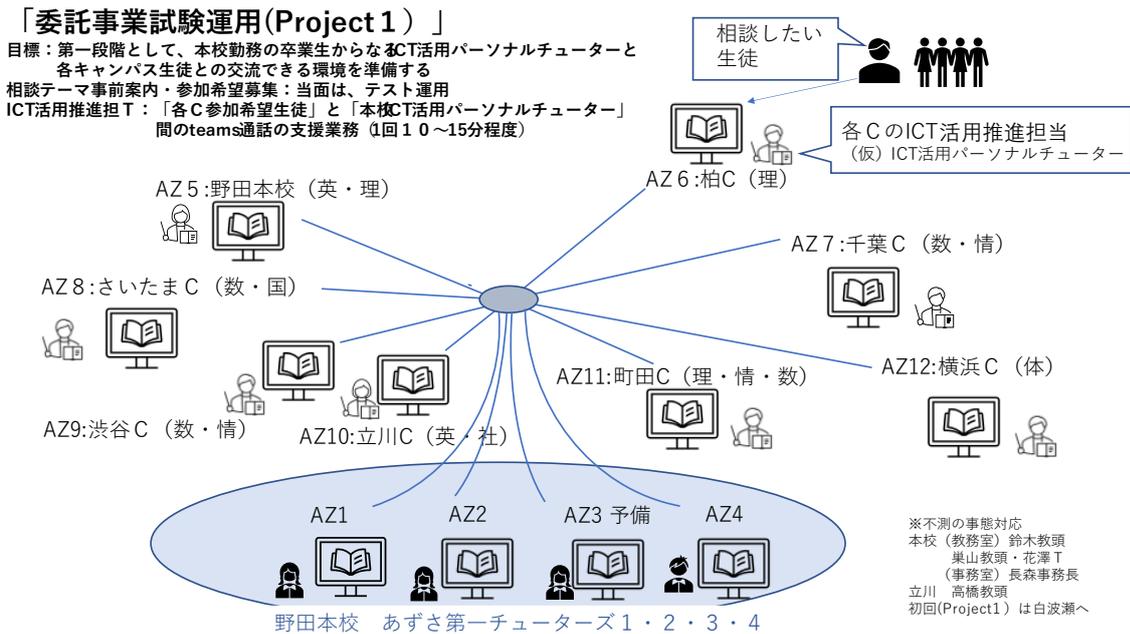


図1 第1期（6月～7月）



野田本校コンピュータ室 チューターAZ2,AZ4の2名
 令和4年7月6日13:00～13:50

写真1-1 運用の様子

表2 運用の記録の一例

委託事業試験運用(P project 1) 記録用紙						
記録キャンパス名：さいたま				PC記号：AZ8		記録者名：齋藤・大城
試験運用日時			7月	6日	運用時刻	13時00分～13時50分
			運用時間 約50分			
参加協力生徒情報	年次	1	年次	1	年次	
	クラス	A	クラス	B	クラス	
	氏名	13名	氏名	8名	氏名	
(予備)						
活用支援職員情報(氏名)	渡辺 のぞみ・野井 達吉					
運用相手情報(az記号等)	チューター2・チューター4					
(話題の内容・感想、その他)						
・チューターが在学時の学校生活のこと(行事・部活・授業・先生との関わりなど)やアルバイトのこと						
・好きなアニメや声優						
・チューターの趣味						
・あずさに入学を決めた理由						
・PCは普段使うか						



写真1-2 運用の様子2

チューター数：生徒数

2：21

1：1

2：2

2：1 等様々な事例を試す



写真1-3 運用の様子3

「委託事業試験運用(Project 2)」

目標：第二段階として、本校勤務の卒業生からなるICT活用パーソナルチューターと3高等専修学校生徒との交流できる環境を準備する
 相談テーマ事前案内・参加希望募集：当面は、テスト運用
 各高等専修学校担当T：「各校参加希望生徒」と「本校ICT活用パーソナルチューター」間のteams通話の支援業務（1回10～15分程度）

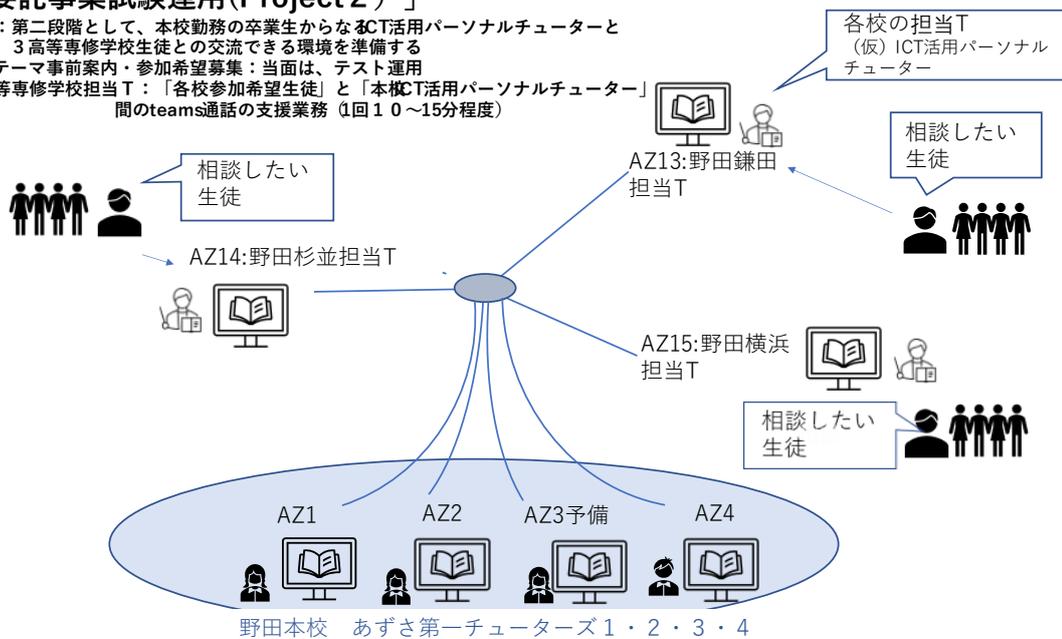


図2 第2期（10月～12月）

8. 事業の成果と評価の基準となる指標（定性・定量的）

今年度は、ICT活用パーソナルチューターの試行的運用の時期であり、運用前と運用後にどのような生徒の意識変化・職員の意識変化が得られるかをアンケート調査により把握した。

具体的には、成果と評価の基準となる短期的な指標（定量的・定性的）について、生徒・保護者・ICT活用パーソナルチューター・全職員へのアンケート調査による意識変化の分析（定量的）を行った。

また、積極的に利用に関わった「生徒」、「保護者」及び「ICT活用パーソナルチューター」へは、対面を含めたインタビュー調査で、定性的な評価を得た。

9. 調査研究の実施体制

- 調査研究実施に対する支援や指導統括管理、経理、事務連絡
学校法人野田鎌田学園本部 法人本部 理事長 長森 修三
総務課長 長森 英人

- 研究統括 本事業に関する検討会議の構成
研究への助言 江戸川大学 情報教育研究所長 情報文化学科 教授 玉田 和恵
研究対象校 校長 白波瀬 正人
副校長 尾崎 圭
教 頭 鈴木 進太郎（研究主担当）
巢山 克洋
高橋 正
事務長 宮野 聖香
主任SC 長森 麻記子（S S W兼任）
教 諭 大城 和宏（ICT活用推進担当長）
教 諭 花澤 諒一（WEB授業動画担当者代表）

III. 研究報告

1. 令和4年度事業実施日程

表3 実施日程

4月	令和4年度の事業の趣旨・内容について全職員への周知 雇用職員の採用準備：3名非常勤職員契約	
5月	調査研究の実施体制構築 専用PCの準備等	
6月	本事業に関する第1回検討会議（6月2日） ICT活用パーソナルチューター等、活動開始 ICT活用パーソナルチューターの活動 チューターからの聴き取りアンケート調査項目の検討・準備	委託事業試験運用 (Project1) 8キャンパス
7月	ICT活用パーソナルチューターの活動 チューターからの聴き取りアンケート調査準備	↓
8月	ICT活用パーソナルチューターの活動 チューターからの聴き取りアンケート調査実施	
9月	ICT活用パーソナルチューターの活動 チューターからの聴き取りアンケート調査の結果分析 本事業に関する第2回検討会議（9月29日） 調査研究の進捗状況の確認	
10月	ICT活用パーソナルチューターの活動 生徒へのアンケート調査の企画・準備	↓
11月	ICT活用パーソナルチューターの活動 生徒へのアンケート調査の実施	
12月	ICT活用パーソナルチューターの活動 生徒へのアンケート調査の結果分析 本事業に関する第3回検討会議（12月15日）	
1月	調査研究の進捗状況の確認 ICT活用パーソナルチューターの活動 調査研究の成果の整理	生徒・教職員向けアンケート 1/26～2/6
2月	ICT活用パーソナルチューターの活動 調査研究の成果の分析 本事業に関する第4回検討会議（2月16日）	↓
3月	ICT活用パーソナルチューターの活動 調査研究の成果まとめと最終年度への提言	

2. 検討会議について

○ 第1回（令和4年6月1日）

（1）初めに

6月からパーソナルチューターが1名増える（昨年度からの継続3名と合わせ今年度は4名を採用）。
パーソナルチューターは現在オンライン会議の練習中。委託事業用のパソコン12台の内、4台はパー

ソナルチューター用に設定済→残り 8 台は各キャンパスに配置して生徒とパーソナルチューターがコミュニケーションを取るために使用していく（文化祭の出し物についてなどの相談）。

(2) 本題

GIGA スクール構想のためには生徒が ICT 機器に触れられることが必須。現在各キャンパスの環境を調査している。今年度どのように進めていくか各担当者の意見を聞きたい。

- 各キャンパスから報告されたインターネット環境は現在まとめているところ。さいたまキャンパスで先行して GIGA スクール構想を導入したい。対生徒・保護者と対職員の連絡ツールは別のものを使った方がいい。
- パーソナルチューターから、生徒とオンラインで話すときに「カウンセリング的な内容だとどのように話を聞き出したらいいかわからない」、「自分のことを話し過ぎてしまうのではないか」といった相談を受けた。
- 先ずは生徒の困っていることに共感して、カウンセラーに繋げることで大きい役割になる。
- 本校の生徒は学力差が大きいと感じている。集合授業では指導が難しかったが、ICT を利用することで何とかできるのではないかと感じている。
- 大学ではドリルみたいに中学校の復習ができるシステムを導入している。
- 無料で使える学習コンテンツは多数ある。目的が無く環境を整備することは危険。当面は情報の授業で実習を取り入れるのがいいのではないか。
- 情報の授業に関わらず電子黒板があれば毎回同じ板書をしなくてよくなり、空いた時間で生徒対応ができる。そういったことも ICT 活用ではないか。生徒毎に端末を用意できればタイピング等の実習もできる。

(3) 最後に

教員向け、生徒向けにアンケートを実施する。次回はアンケートの設計から江戸川大学と協力して行いたい。年 4 回この会議を行いたい。



写真 2 - 1 第 1 回検討会議

○ 第 2 回（令和 4 年 9 月 2 9 日）

(1) 当該事業において現在行っている取り組みについて

会議資料を読み合わせ、6 月からの経過報告を行った。

千葉県立松戸南高校のパーソナルチューターについて視察を実施した。

将来的には教員が副担任制度として携われないか。

10 月以降高等専修 3 校とパーソナルチューターが繋がれるよう端末の準備をする。

(2) チューター用 PC の試験運用について

試験運用の様子を共有した。

現在は各キャンパスの軽音部等で座談会が開けないか声かけをしている。

学習面より生活面のニーズが高い。

(3) オンラインカウンセリング等による支援について

本校はカウンセラーが 11 人いるのが強みである。しかし現状の対面カウンセリングでは登校が滞っている生徒にカウンセラーが支援を行うことは難しい。オンラインカウンセリングで支援できないか。ただし、チャットでのやりとりはログが残るためビデオ通話形式の実施としたい。

(4) 意見および情報交換

- オンラインで生徒同士やチューターがコミュニケーションをとることで学校生活の充実に繋げることができるのではないかと。生徒へのアカウント配布の方法も改善の余地があるかもしれない。
- オンラインカウンセリングは定期カウンセリングには有効そうだが、初対面の生徒に対してはどうだろうか。
- 初対面のオンラインカウンセリング利用の生徒とはゲームをするなどして信頼関係を深めるきっかけになれば。
- 長期に渡って学校に来られず、電話も繋がりにくい生徒の様子を把握するためにビデオ通話を活用できるのではないかと。
- オンラインカウンセリングが、生徒が学校やカウンセラーに繋がるための選択肢の一つになれば。少人数でも希望者がいれば実施する価値がある。
- チャット形式で行うものも検討してみてもは。声でのコミュニケーションに抵抗がある生徒もいるはず。リスクを恐れて足踏みしては何も進まない。とりあえずチャレンジしてみてもは。
- チューターは現在野田本校でのみ勤務しているが、キャンパスの様子を見に行ってもいいのではないかと。
- 現在のチューターは研修を行っていない。生徒とコミュニケーションをとる場合は職員が側にいることが条件である。チューターの育成には時間がかかる。
- 副担任としてのパーソナルチューターであれば非常勤講師も適任かもしれない。
- 職員の意識と技術の向上が必要であれば、現状を把握して数年後のデータと比較すれば結果がわかりやすい。

(5) 今後の事業について

- 今後の進め方について
複数回のアンケートを実施する準備を進める。
チューターとの試験接続を 3 高等専修学校でも実施する。
- その他
同様の委託を受けている他校の資料も見てみるとよい。

○ 第 3 回 (令和 4 年 1 2 月 1 5 日)

(1) 当該事業において現在行っている取り組みについて

国からの補助金が出るタイミングを見計らって 280 台のパソコンと 1 台の電子黒板を申請中。

(2) 教員向け試行アンケート結果と江戸川大学にて検討いただいているアンケート案について

- 資料を読み合わせアンケート結果を確認した。
- 解答平均時間は 30 分だった。本アンケートは研修の前後で採るのがいいのではないかと。
- デジタルネイティブとそうでない世代で意識に差があるのかもしれない。

- アンケートだけでは具体的な物事が進まないため、同時に他の動きをとることも必要だと感じた。
→生徒向けアンケートの期日は1月中とすることとした。卒業対象者は考査後の実施となる。

(3) チューターの活動について

今後もチューターの存在を知ってもらえるよう活動する。



写真2-2 第3回検討会議

○ 第4回（令和5年2月16日）

(1) 当該事業において現在行っている取り組みについて

- ① 教員向けアンケート結果と生徒アンケート結果について
資料を読み合わせアンケート結果を確認した。
 - ICT パーソナルチューターとして相談が受けられないと回答した教員については、理由を掘り下げて解消できれば受けられるようになるのではないかと。
 - 資料補足。867名がFomsで回答し、残りは紙での回答だった。平均回答時間は7分半程度だった。
- ② オンラインカウンセリングについて
 - 配布資料がほぼ完成版。カメラオンオフの決定が精神的な健康度の影響を受ける可能性もある。
- ③ 成果報告書作成分担について
 - アンケート担当等分担して行うこととした。締め切りは3月中旬ごろ。

(2) 今後の事業について

- ① 校長より「次年度事業計画案について」
パーソナルチューターを導入している松戸南高校の校長から本校の取り組みについてお褒めの言葉をいただいた。
- ② その他
 - 生徒へのアンケート結果で動画編集に興味がある生徒が多いことがわかった。
 - 今どきの生徒はショート動画の作成に興味があるのではないかと。
 - インフルエンサーの需要が高まっている。
 - Teamsは職員間での連絡にも使用しているため、同じツールを使って生徒とやりとりすることに不安を感じている職員がいる。生徒との連絡は別のツールを使用することも視野に入れた方がいいかもしれない。

3. ICT活用パーソナルチューターの活動について

令和4年度の本事業においては、パーソナルチューターとして5名を採用予定であったが、実際は本校卒業生3名がメインで活動した。

事業予算において配備することとなったノートパソコンが12台あり、3台を野田本校にてチューターが使用するものとし、残りは本校以外の7キャンパス（柏、千葉、さいたま、渋谷、立川、町田、横浜）および技能連携している3高等専修学校（野田鎌田学園高等専修学校、野田鎌田学園杉並高等専修学校、野田鎌田学園横浜高等専修学校）に一定期間ずつ配備することとした。

生徒がチューターにオンライン面談で相談できるようにするため、まずは配備したパソコンを使用し、教員立ち会いのもと、「Microsoft アプリ Teams」を用いて数名の生徒とチューターをつなぐ試験運用を行うこととし、以下のように実施した。

○ 立川キャンパス

日 時：7月7日(木) 12:00～ 20分程度

チューター：長江、野井

生徒：各年次1名 計3名(男子1名女子2名)

3年生の男子生徒は、軽く立候補した感じで協力に至り、1・2年生の女子生徒2名は、先生に声をかけられなんとなく協力に至ったようだ。3名とも軽音楽部に所属しているようで、話題は部活に関することが中心だった。あずさの良いところは、盛んな異学年交流だと男子生徒は話してくれた。

今回は試験的なこともあり、生徒さんからの要望も特になかったため雑談をしたが、20分程度がちょうどよく思えた。生徒の人数や相談内容によって、時間を調整するのが良いかもしれない。

また、生徒に話を聞いた際に『まだ実際には活動はしていない』と言っていたのでこちらが『そのうちオンラインで色々なキャンパスと軽音座談会っぽいのでできるといいよね』と伝えると、それに対し興味のあるような反応が伺えた。それが実現できるように頑張りたいところだ。

改善したい内容としては、互いに声が聞こえにくかった点だ。スピーカー音は最大にしていたものの、十分な音声ではなかった。1対1であれば、イヤフォン等での対応が可能かもしれないが、複数人となった場合は、そこをどうにかクリアしていきたいところ。全体的には、とてもよかったと思う。

○ 千葉キャンパス

日 時：7月7日(木) 14:30～ 15分程度

チューター：長江

生徒：1年次 2名(男子1名女子名)

どちらも1年生で、今回は先生に声をかけられて協力に至ったことから、こちらからいくつかの質問をする形で会話を進めていった。「実際にこうやってオンラインで誰かと繋がれるとしたら使ってみたい？」と問いかけると、女子生徒は「うーん・・・話すのが苦手だから」とあまり気乗りしない様子だった。男子生徒も「実際にオンライン授業をやったことがあるが音質が良くなかったりして・・・」

と過去のオンラインでの経験談を話してくれた。

その他には、部活のことやアルバイトのこと、学校生活のことを聞くことができた。どちらの生徒からも学校生活は“楽しい”という言葉が聞けた。今回協力してくれた2人以外にも、画面外にさらに2人いてくれたが、恥ずかしいということを理由に会話にはほとんど参加しなかった。

時間は、15分程度の会話だったがちょうどよかったと感じた。

話すのが苦手と言っていた女子生徒だが、初対面で緊張もある中、こちらが質問をするとききちんと返答をしてくれて、会話は問題なく成り立った。男子生徒に関しても、はきはきとよく受け答えをしてくれていた。先生から声をかけられて協力してくれる生徒さんに対しては、いくつか会話の引き出しを持っておくと生徒さんも話しやすいかもしれない。

改善点は、立川と同様にマイクとスピーカーの音量である。画面に顔を近づけないと聞こえづらいというのが千葉のやり取りでもあがった。男子生徒の話にもあったが、音質が良くないとオンラインゆえに余計に話しづらい空気を作ってしまうため、本格的な導入前に改善する必要があるかもしれない。

また、今回千葉との通話中にすぐ隣のパソコン室で授業があった。音質に課題がある上に周りが授業でざわついていたことも相まって、環境的にも良質とは言えなかった。通話環境も整えていく必要がある。

○ さいたまキャンパス

日 時：7月6日(水) 13:00～ 50分程度

チューター：渡辺、野井

生 徒：1年次 21名

LHRの時間を使っての対談形式となった。事前に質問を考える様言われていたみたいで10名程の生徒が交代で質問してくれた。学校に関するだけでなく、趣味に関する質問も出てき、和気藹々とした雰囲気が進み、質問に関する事をこちらから質問してもきちんとかえてくれた。ただ、やはり質問が思いつかなかった生徒も半数程おり、質問がなくなってくるとやはり静まり返ってしまう時もあった。生徒側からの質問を受ける場合（特に大人数の時）はどこで区切りをつけるか見極める必要があると感じた。

また、質問を考えてきてくれたが、話しにくい様で、友達が代わりに質問している場面もあった。やはり大人数の前や初めて顔を合わせるチューターには話しづらい生徒もいるのだろう。生徒のニーズに合わせていかないと話したいことがあっても話せなくなってしまうのだろう。

映像が途切れることはなかったが、マイクの問題は感じた。さいたまキャンパス側はスピーカーがあったのか、多少こちらが声をはる程度で広いラウンジでも声は通っているようであったが、マイクはパソコンのものを使っていたので、前に出て近づいてもらわないとこちらは聞こえなかった。なので、こちらから質問をしたときに回答を聞き取れず、また前に出てきてもらわないといけなくなった。大人数でチャットの場合はマイクがあった方が生徒達の意見を聞き逃しにくくなるのではないと感じた。

○ 横浜キャンパス

日 時：7月14日(木) 10:30～ 20分程度

チューター：長江

生 徒：3年次 男子2名

事前に“心理に興味がある生徒”と聞いており、横浜キャンパス側の指名で長江が対応をした。指名してくれただけあって、生徒さんの方で質問をいくつか考えてくれていた。

主に進路に関する話(実際に心理系に進んでみてどう思ったか、どんなことを学んでいきたいと思っているのか)や、自分たちがコロナ禍によって一度も経験したことがない文化祭に対しての質問を中心に話すことができた。2人ともオープンキャンパスに参加した感想を聞かせてくれたり、どういうことをしていきたいかを教えてくれたりと、進路や行事に対して意欲的な姿勢がすごく素敵だと思った。後に聞いた感想では、『チューター側が話を進めてくれたので助かった』、『またお話をしたい』と先生や生徒さんからの声が聞けた。

改善点は前回同様マイク・スピーカーの音量であるが、今回よかった点として気づいたのは、チューターのプロフィールを作成したことによって、指名をして知りたいことをなるべく知っている人物に聞けるという流れがあったので、プロフィール作成含め広報活動には大きな意味があったと実感した。

○ 町田キャンパス

日 時：7月21日(木) 11:00～ 20分程度を2回に分けて実施

チューター：①長江、渡辺 ②野井

生 徒：①3年次 男子2名 ②3年次 男子1名

① 一回目

急遽先生に声をかけられての参加の様、二人ということで一旦長江・渡辺二名で対応した。町田の生徒もこちらの質問にスムーズに受け答えしてくれ順調に通話を行えた。二人とも進路は決めているようで一人は調理系の専門に、もう一人は一般での大学を目指しているようでそこからの進路の質疑応答を行った、基本的に生徒さんはやはり進路系の悩み、相談が多いようだ。

進路のことなどを話していきこちらの感じとなれが出てきてからは質疑応答なども含めて積極的になったような気がする。町田のキャンパスでは授業でもPCを使わないようでこういったリモートでの会話は新鮮で楽しいがやはり見知らぬ人と話すという行為は一步踏み出すのに勇気があるようだ。PCなどを授業で活用していくことに関しては興味があり賛同のようだ。

② 二回目

通話はじめはやはり緊張をほぐす意味も含めてこちらの質問で進めていくことになった。ほぐれていくと次第に自分から話し始めてくれて進路の悩みや文化祭の催しなどの会話が進んでいった。

進路に関しては自分の体験談を話してそれに関して質問を受ける形になった。今回はこちらからの質問としてチューターとの通話や相談などを進めていくには実際どのようにすればいいの

かということを難しいながら率直に答えてもらった。

やはりいきなりのカメラをつけての対話には生徒側に抵抗があるに感じた。担当の先生を介してもやはり自分からいうのは勇気がいるようだ。常設でPCを開いてチャットをする方がまだ簡単のように感じる。

他キャンパスとの交流に関してはこちらが案を出すとかかなりの好感触を感じた。

※柏キャンパス、渋谷キャンパスは未実施。野田本校についてはオンラインカウンセリングの試験運用に協力してもらった。チューターの勤務が野田本校であるため、生徒とは朝の挨拶運動等で直接関わっている。

○ 野田鎌田学園横浜高等専修学校

第一回

日時：10月27日(木) 12:30～ 15分程度

チューター：渡辺

生徒：情報科2年次 男子2名

元々人前で話すのが好きな生徒と、画面越しの方が話しやすい生徒とだったので、会話が途切れることなく、進路や趣味、鎌田学園を選んだ理由などを話してくれた。通信の説明会に参加した時の広報の先生が面白くて鎌田学園を選び、入学後再会する事ができたそう。

また、今は簿記3級の勉強や、通常の授業を受けながら文化祭の準備に取り組んでいると言っていた。こちらからの質問に答えるだけでなく、補足で色々な事を話してくれたり、あちらから質問してくれたりして会話が弾み、あっという間に時間が過ぎた印象だった。2人とも中学校に通えていなかったと言っていたが、その様な感じを受けなかった

一度カメラが止まる事があったが、それ以外の問題はなく、音声もお2人や先生と会話するには問題なかった。

先生からは定期的にやりたいと言っただき、野田鎌田学園横浜高等専修学校の文化祭の時に繋ぐなどをしていきたい。他の生徒の参加を検討してくれている。こちらとしても有難いことなので続けていきたい。

第二回

日時：11月2日(水) 14:00～

チューター：渡辺、野井

生徒：調理科3年次 男子1名

3年調理科、声優の専門学校に出願予定生徒の進路相談。声優専門卒業チューター（野井）の経験談。専門学校の話。専門卒業後のプロダクション・養成所の話。目指すならば専門学校入学前から滑舌の練習が必要など、参考になる話を聞いて、想定どおりの現実を知るが声優を目指したいという気持ちは変わらない。

○ 野田鎌田学園高等専修学校

日 時：11月30日(水) 15:00～ 25分程度

チューター：野井

生 徒：調理科2年次 男子2名

終始雰囲気良く2人とも積極的に話してくれて振った話題に対して応答だけでなく膨らましてくれるのでかなりスムーズだった。最初は緊張気味だがチューターの説明や、自分が先生ではあるが先生よりOBの方が説明に合っていることを説明すると大分ほぐれたような気がする。やはりわからない状態だと先生との個人面談に近い状態のため身構えるようだ、きちんと説明をして身構えるほどのことはないことを説明した方がよいと感じた。その後は、2人とも専門的な分野の話や将来の設計など楽しそうに話してくれた。

今回2人は先生の選出で話が好きな子が呼ばれたようだがこういったWEBを使った交流をしたいかと問うとかなりの好感触が返ってきた。交流の際にWEBやパソコンなどの使用頻度や使用感を尋ねたところやはり授業外で使うことが少なくかろうじて片方の生徒さんがゲームに使用するだけと答えてくれた。

聞くところによるとExcelやwordなどのツールは授業で追いつくのがやっとだそう。将来設計の話が盛り上がった際に自分のお店を持ちたいとの話が上がりその話題の中で自分の店を持つと在庫管理や会計集計などでどうしてもパソコンなどのソフトが必要なことを説明すると大分悶絶していた、やはりあまり触らないもののため苦手意識が強いようだ。

全体を通して雰囲気よく軽快に進んだため30分近く繋いでいた気がするがかなり話し足りない感があるレベルであった、これは2人の生徒が話に乗っかるのがうまいことや話が合ったことがあげられると思うので毎回こうなるには素早く打ち解けられることがかなりの優先事項に思える。

○ 野田鎌田学園杉並高等専修学校

日 時：12月7日(水) 12:40～ 15分程度

チューター：長江

生 徒：調理科 女子1名

昼休みに合わせて実施した。事前にカウンセラーから、「真面目さん」であり緊張して参加すると思うという報告を受けていたので、ある程度チューターでどういった形で実施していくかを話し合った。あまり大勢では相手の生徒さんが委縮してしまうと考え、最初の挨拶だけは3人とも済ませ、そこからはほとんどマンツーマンでのやりとりをした。主に、専修学校の仕組みや進路の話、調理科であることから料理の話をして会話を広げた。緊張している様子はあったが、こちらからの質問に対してスムーズに答えてくれ、一言で終わることなく話を膨らませてくれる様子も見られた。

以前も感じたが、あずさ生に比べると、専修学校生のコミュニケーション能力は高いように思う。今回の生徒も、普段カウンセリングを受けているということだが、そのような感じは一切なく、コミ

コミュニケーション能力も問題ないと思った。年齢は変わらないが、全日と通信ではコミュニケーションという観点で少々の差があると改めて感じた。

○ チューターによるさいたまキャンパス訪問における生徒との交流について

オンラインのみの活動ではなく、生徒と直接関わり、交わることも必要とのことから、普段チューターが勤務している野田本校以外での交流を企画した。試験運用時の反応から、軽音楽部が活動しているさいたまキャンパスで行うこととし、以下のように実施した。

● 行程 令和4年11月9日

10:30	野田本校出発（同行：鈴木教頭）
12:15	さいたまキャンパス到着
12:15～12:45	顔合わせと昼食
12:45～13:00	生徒の清掃活動に参加
13:00～13:50	4限の各教室での授業を視察
13:50～15:30	1Fロビーにて座談交流。軽音楽部見学。
15:40	終了

● チューター3名からの個別報告

➤ 長江つばさ

全体的な印象

徒歩でいける距離ではあるが思っていたより駅から遠くびっくりした。実際にキャンパス内に入って初めての感想は、すごくきれいで広かった。野田本校が学校という感じなら、さいたまキャンパスは専門学校、大学のような作りに近いと感じた。

生徒

女子生徒が多かった。清掃を手伝わせてもらったが、そんな風景を見ていると、男女の仲、クラスの仲は良好に感じる。協力して清掃に取り組んでいた。

放課後に持参したお菓子を広げ、階段を降りてくる生徒さんに声をかけたが、ほとんどの生徒さんが受け取りに来てくれた。中には、そこから話を膨らませてくれる生徒さんも多く、色々な生徒さんと話をする事ができた。

先ほど、「野田は学校、さいたまは専門、大学」と書いたが、さいたまの生徒の中には「野田は学校過ぎて、学校というものにトラウマがある人は行きづらい。そういう子も多い」と話す子がいた。学校であること、学校ぽくないこと、この2つの重要性を感じた。

総括

思っていた以上に生徒さんと交流ができたと思う。ここまで交流ができたのは、さいたまキャンパス1階の作りにある。職員室から見渡せるロビーのような作りは、生

徒が集まりやすく、日当たりも良いため、とてもリラックスできる空間になっていた。日頃より自由に滞在できることで、生徒も活用しやすく、またそこに開かれている職員室があることで、職員の間も行きやすい。そんな場所にお菓子を広げることができたことが、親しみやすさを演出し、有意義な交流につながったと思う。

教室に一人一人名前の付いた引き出し、机があることも、ある程度空間が統制されていることの表れに思う。今回対面で多くの生徒の話を聞くことができたため、ICTを活用していく(使ってもらう)には、こういった対面ありきでの交流(顔を売っていく、知ってもらう)も大切である。

▶ 野井達吉

- ・専門のようにラウンジがあるのが良い。ラウンジがあるために交流がしやすかつながりが作りやすい。
- ・日当たりなどもあると思うが校舎全体が明るく見え、その影響か生徒も野田に比べてやや活発に見えた。
- ・クラス間のつながりもまとまりがあり掃除などの協力性も見えた
- ・こちらから声をかけたが打ち解けた後は積極的に話に参加してくれた、一度オンラインで会話した生徒に関しては自分から声をかけてくれるなどフレンドリーさが見えた。
- ・学校というカテゴリーを意識させない雰囲気、学校が苦手な生徒にとっては居心地の良さを感じさせている要因なのではないかと感じた。

▶ 渡辺のぞみ

野田の生徒と比べて全体的に交流に前向きな生徒が多いように感じた。お菓子があると伝えれば殆どの生徒がもらっていったくれた。また、その場に残ってくれて話を聞かせてくれる生徒も結構多かった。なかには話すのが苦手の様だが、それでも座って学校帰りどこに寄り道するのか、駅前のカラオケ事情など、プライベートの事も話してくれる生徒もいた。また、天候不順での時のことなど、学校生活に関する愚痴など、生徒の素直な話が聞けたように感じた。

文化祭のなごりかもしれないが、生徒の制作物の展示がしっかりしていた。それもあってか、さいたまキャンパスはアート系の活動が盛んなように感じた。

建物は綺麗で掃除も行き届いている様だった。掃除の時間に参加したが、生徒も皆、協力して行っていた。ただ、立地は少し気になる。駅から遠く、高崎線の本数が少ないので先生もいつも急いで学校をでないと、次の電車までの時間が空いてしまうと言っていた。駅から学校までの間にコンビニなど数件あったが、昼休みの間に買いに行き食事をするのは時間的に厳しそうである。

1階にラウンジのようなものがあり、職員室が開けているのはとても良かった。ピアノがあり、自由に使えるのも良かった。生徒同士や先生との交流の場になっており、沢山の生徒が利用している様だった。レポートにわからないところがあっても、わざわざ教室に戻らなくても、その場で先生に聞いて進められるのは先生にも生徒にも

メリットあると思った。これは野田にも共用スペースの様なかたちで取り入れてもらいたい。進路指導室では入りづらいのでもっと開放的な場所があるといいと思います。



写真3-1 さいたまキャンパスでの交流の様子

4. アンケート調査結果

教職員向けアンケート調査結果

① アンケートの目的

本事業に対する本校職員の関心度を調査すること。また、本校職員の中に ICT 活用パーソナルチューターとして活躍を見込めるものがあるか調査すること。

② アンケートの対象

あずさ第一高等学校に所属している常勤教職員 89 名

③ 実施期間

令和4年12月23日から令和5年2月6日まで

④ 実施方法

Microsoft 365 の Forms で作成した調査票の URL をアンケート対象者に共有し、Forms 上で回収と集計を行い調査した。

⑤ 回収率

アンケート対象者 89 名の内 57 名から回収し、回収率は 64%(小数第一位を四捨五入)となった。

⑥ 調査票と回答結果 (次ページ) ※赤字は回答数

多様性に応じた新時代の学び充実支援事業

* 必須

あずさ第一高等学校では現在、生徒によりきめ細かく丁寧な指導・支援をすることで、中途退学者を減らし、高卒資格を取得できる生徒を増やすことはできないかと考えています。その1つとして「ICT活用/パーソナルチューター」制度を検討しており、Teamsのビデオ通話やチャット機能を活用したパーソナルチューターをあずさに導入することで、生徒のより良い学びや成長、自立につながられるのではないかと考えています。以下の問いにお答えください。

1. 性別を教えてください。*

- 男 34
 女 27
 その他 0

2. 先生の教職経験年数を教えてください。*

- 過労1～5年目 12
 過労6～10年目 13
 過労11～15年目 12
 過労16～20年目 4
 過労20年目以上 8
 教職経験なし（教員ではない先生はこちらを選択ください） 8

3. 教員の先生にお聞きします。担当の教科を教えてください

- 国語 10
 数学 7
 英語 9
 理科 6
 社会 10
 保健体育 4
 家庭科 1
 情報 4
 書道 0

4. 先生が、あずさで大切にしている教育について、あてはまるものを選んでください。（複数回答可）*

- 多様性を尊重し、温かみあるふれる対面教育 43
 生徒の立場でものごとを見つめる 27
 対面指導により問題解決方法のヒントを与える 24
 基礎学力に自信がなくても教員が手厚く教え、指導する 33
 生き抜く力を身につけさせる 22
 コミュニケーションや人間関係の再構築を学ばせる 32
 その他 4

5. 先生は、あずさでの学びの成果として、生徒にどのようになってほしいですか？（複数回答可）*

- 自信を持ってほしい 35
 コミュニケーション能力を身につけてほしい 24
 自分の意見を持ち、それを人前で表現できるようになってほしい 16
 自分の力で自立、自律できる人になってほしい 41
 粘り強く物事に柔軟に対応できる能力を身につけてほしい 26
 とにかく卒業させるのみ 3
 その他 8

6. 先生が日頃から活用しているICTツールを教えてください。（複数回答可）*

- PC 44
 スマホ 51
 その他 5

7. ICT活用/パーソナルチューターに期待しますか？*

- はい 46
 いいえ 11

8. 7のように回答した理由を教えてください。*

回答を入力してください

9. ICT活用/パーソナルチューターにはどんな支援してもらえるといいと思いますか？（複数回答可）*

- 教科 24
 進路 33
 学校生活 46
 趣味・特技 21
 その他 8

10. ICT活用/パーソナルチューターに必要な適性は何だと思えますか？（複数回答可）*

- 聞き上手 41
 話したくなる雰囲気 45
 自己PRがうまい 5
 その他 15

11. 先生ご自身がICT活用/パーソナルチューターとなった場合、他のキャンパスや学校の生徒からICTを活用して相談があったら、受けられますか？*

- はい 21
 いいえ 36

12. 11で回答した理由を教えてください。*

回答を入力してください

13. 11で「はい」の方のみ答えてください。ICT活用/パーソナルチューターになった場合、他キャンパスや他学校の生徒から、相談相手として選んでもらうために、先生の得意なことや特技についての自己PRが必要となってきます。先生の得意なこと、特技を教えてください。例えば、「城のごとについては誰にも負けたくないと思っている」「ゲーム大会で優勝したことがある」「アロマ検定1級を持っている」など、自分が他者より秀でているもの、はまっているもの、生徒におすすめできることがあったら教えてください。

回答を入力してください

送信

アンケート結果から

質問1から質問3の回答結果には特筆すべき内容が見受けられなかった。

図4-1より、回答者の内「生徒の多様性を尊重し、温かみある対面教育」を大切にしている職員が多数を占めることがわかった。このことから、本校の職員が本事業に強い関心をもっているといえる。

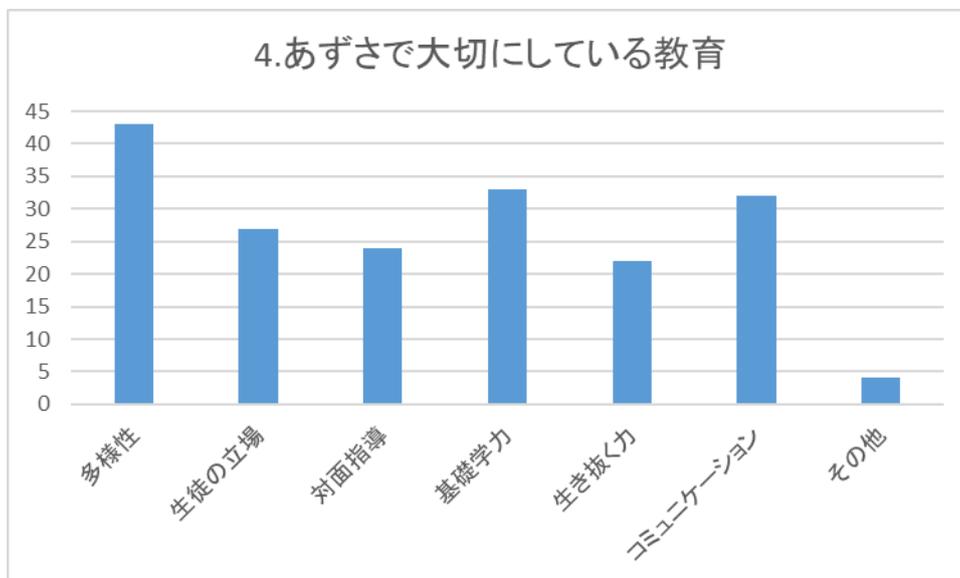


図 4-1 あずさで大切にしている教育

図4-2より、回答者の内本校での学びの結果として生徒に自立する力を養ってほしいと感じている職員が最も多く、次点で自信をもってほしいと感じている職員が多かった。

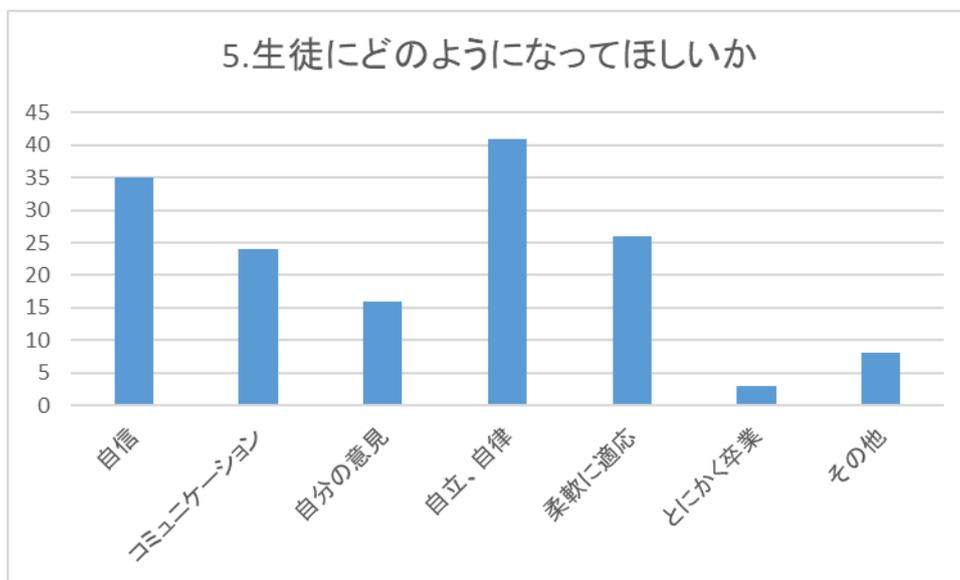


図 4-2 生徒にどのようなようになってほしいか

図4-3より、回答者の多くがPCもスマホも日頃から活用していることがわかった。その他の回答が5件あり、その内4件はタブレットだった。

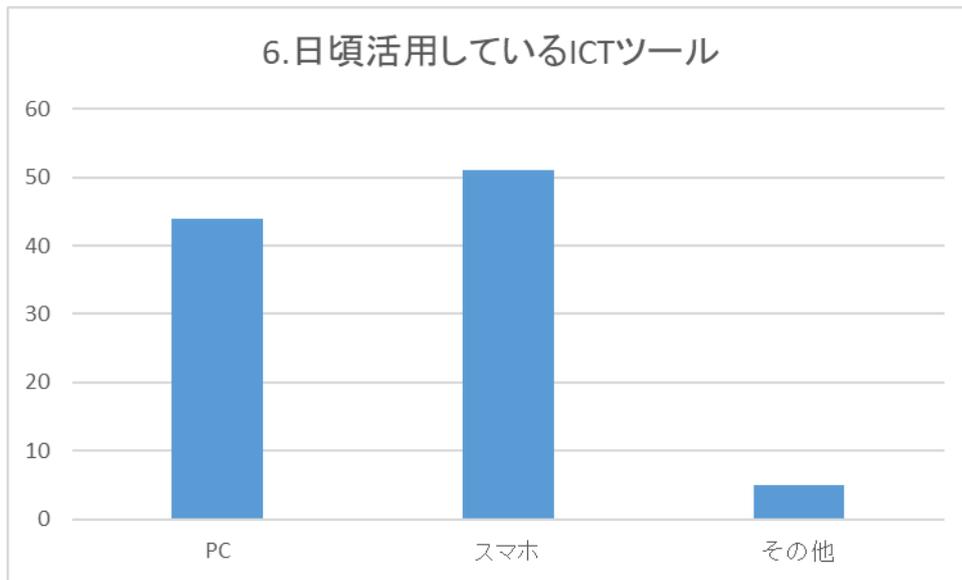


図4-3 日頃活用しているICTツール

図4-4より、回答者の内81%がICT活用パーソナルチューターに期待していることがわかった。このことから、本格的にICT活用パーソナルチューターを導入した際には多くの現場職員の協力を見込めることがわかった。

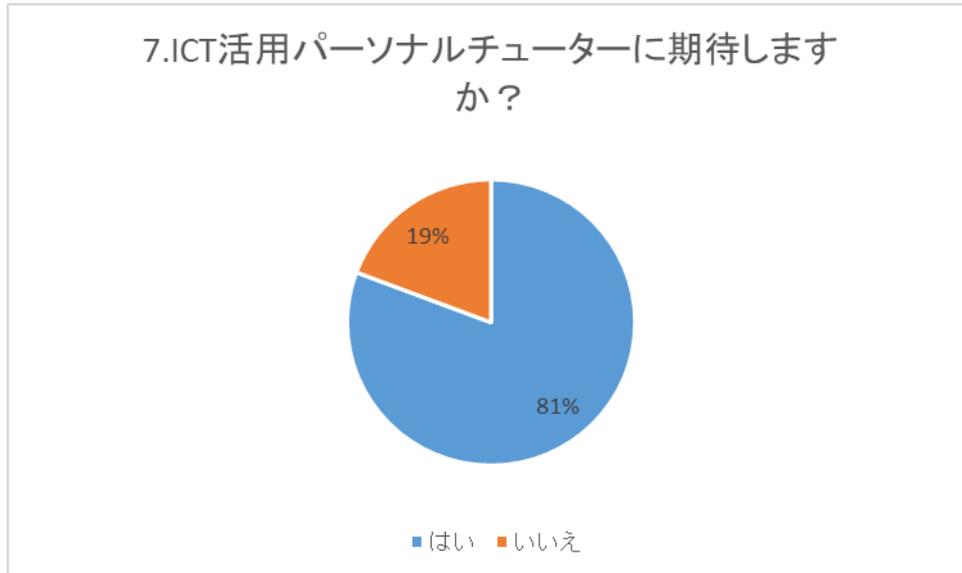


図4-4 ICT活用パーソナルチューターに期待しますか？

質問8の回答の内、質問7で「はい」と回答した回答者は、ICT活用パーソナルチューターが生徒にとって教職員より身近な存在として接することを期待する意見が多かった。質問7で「いいえ」と回答した回答者からは、ICT活用パーソナルチューターの活動内容がイメージできないという意見が多かった。このことから、実際にICT活用パーソナルチューターの運用方針が定めればICT活用パーソナルチューターに期待する職員がより増えることが見込める。

図4-5より、回答者はICT活用パーソナルチューターに様々な方面での支援を期待していることがわかった。その他との回答には、ICT機器の活用方法についてのものが複数あった。

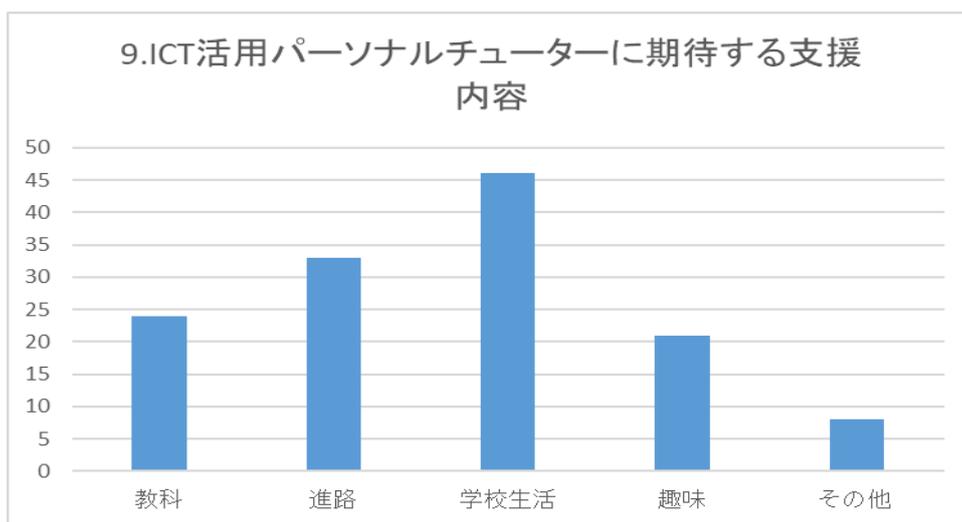


図 4-5 ICT活用パーソナルチューターに期待する支援内容

図4-6より、回答者の内大多数がICT活用パーソナルチューターには「話したくなる雰囲気」と「聞き上手であること」が必要であると感じていることがわかった。その他の回答には、「わからない」や「ICT機器を活用できること」が複数あった。

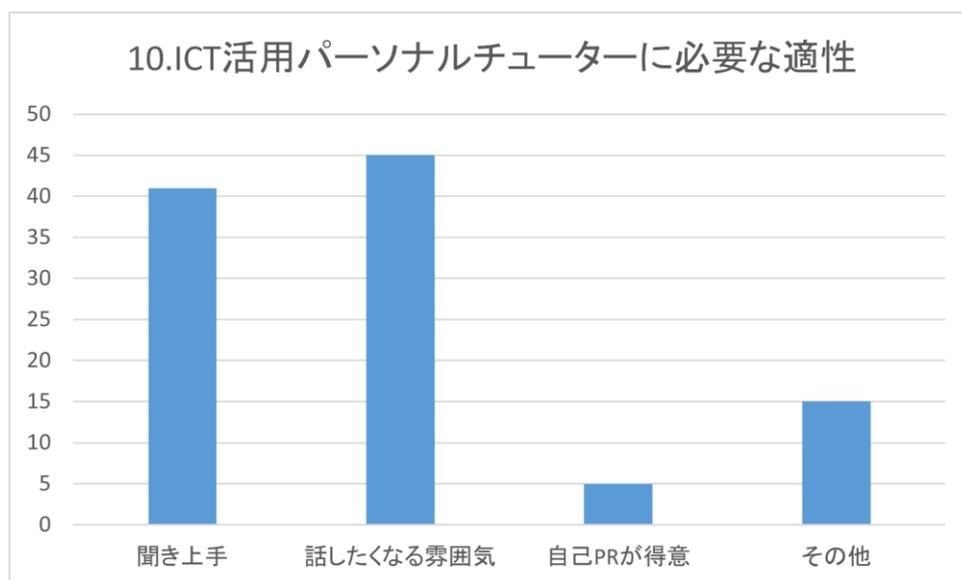


図 4-6 ICT活用パーソナルチューターに必要な適性

図4-7より、回答者の過半数がICT活用パーソナルチューターとして活動することに消極的であることがわかった。図4-4と合わせると、回答者の内多くがICT活用パーソナルチューターに期待はしてい

るものの、自身が ICT 活用パーソナルチューターとして活動することは考えていないことがわかる。

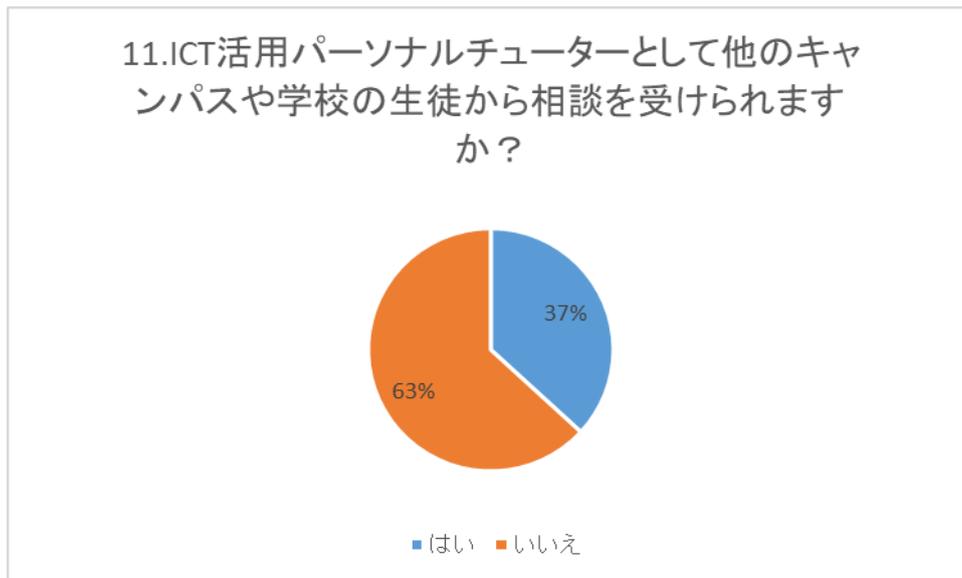


図 4 - 7 ICT 活用パーソナルチューターとして他のキャンパスや学校の生徒から相談を受けられますか？

質問 12 の回答の内、質問 11 で「はい」と答えた回答者からは、「生徒の助けになりたい」や「趣味や経験を活かしたい」といった意見が見受けられた。質問 11 で「いいえ」と答えた回答者からは、「業務過多のため対応しきれない」や「他キャンパスの生徒は様子がわからない」といった意見が多く見受けられた。また、教職員とは別に ICT 活用パーソナルチューターを雇用すべきだという意見もあった。

質問 13 では、音楽やアニメといったサブカルチャーからスポーツや投資信託、アマチュア無線、ハムスター等様々なジャンルの回答があった。同じ趣味をもつ生徒や、興味をもつ生徒とコミュニケーションをとるきっかけとして期待できるものが多かった。この結果をもとに次年度の運用を考案したい。

生徒向けアンケート調査結果

① アンケートの目的

在籍している生徒の ICT 活用能力を調査すると共に、興味をもつ分野の傾向を把握すること。また、在籍している生徒が ICT 活用パーソナルチューターに求める支援内容を調査すること。

② アンケートの対象

あずさ第一高等学校在籍者数 2,908 名（令和 4 年 5 月 1 日現在）のうち、2,549 名（約 87.7%にあたる）を対象とした。対象の内訳は、8 キャンパスに所属する 1,694 名及び、本学園設置の高等専修学校 3 校に所属しながら本校の卒業も目指す 855 名（野田鎌田学園高等専修学校 393 名、野田鎌田学園杉並高等専修学校 283 名、野田鎌田学園横浜高等専修学校 179 名）であった。

③ 実施期間

令和 5 年 1 月 30 日から令和 5 年 3 月 1 日まで

④ 実施方法

Microsoft 365 の Forms で作成した調査票の URL をアンケート対象者に共有し、Forms 上で回収と集計を行い調査した。また、一部の生徒は紙面により調査票に回答した。

⑤ 回収率

アンケート対象者 2,549 名の内 1,132 名から回収し、回収率は約 44.4%となった。内訳は、8 キャンパスに所属する生徒 1,694 名中 422 名（約 24.9%）、高等専修学校 3 校に所属する生徒 855 名中 710 名（約 83.0%）であった。

⑥ 調査票

ICT活用に関するアンケート

ICT(Information and Communication Technology)とは、インターネット等情報技術を使ったコミュニケーションのことをいいます。今後、パソコン、スマートフォンやタブレット端末を使ってWEB等にアクセスすることで「いつでも・どこでも・誰でも」学べる機会を増やしていくために、皆さんがICTとどのようにかかわっているのかについて調査したいと考えております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

1. あなたの所属している学校・学科について教えて下さい。（あてはまるものを1つ選択してください。）

*

- あずさ第一高等学校 野田本校
- あずさ第一高等学校 柏キャンパス
- あずさ第一高等学校 千葉キャンパス
- あずさ第一高等学校 さいたまキャンパス
- あずさ第一高等学校 渋谷キャンパス
- あずさ第一高等学校 町田キャンパス
- あずさ第一高等学校 立川キャンパス
- あずさ第一高等学校 横浜キャンパス
- 野田鎌田学園高等専修学校 調理高等科
- 野田鎌田学園高等専修学校 情報高等科
- 野田鎌田学園杉並高等専修学校 調理高等科
- 野田鎌田学園杉並高等専修学校 情報高等科
- 野田鎌田学園横浜高等専修学校 調理高等科
- 野田鎌田学園横浜高等専修学校 情報メディア高等科

2.あなたの学習スタイルを教えてください。(あてはまるものを1つ選択してください。)

*

- 高等専修学校 (スペシャルスタンダード)
- 5日制
- 3日制+one
- フリーツーデー(二日制)
- フリーワンデー(一日)
- 一般通信制
- WE B

3.あなたの学年を教えてください。(あてはまるものを1つ選択してください。)

*

- 1年次
- 2年次
- 3年次
- 4年次以上

4.あなたがスマートフォン、タブレット、パソコンを自分専用のものとして持っている、もしくは、家族と共有で持っているかどうか教えてください。それぞれについてあてはまるものをすべて選択してください。

*

	自分専用	家族と共有	持っていない
スマートフォン	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
タブレット端末	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
パソコン	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

5.ご自宅のインターネットの接続環境は、毎月定額(決まった金額)で、何時間・何ギガ使っても通信制限がかからず自由に使える契約(例:Wi-Fi、ギガ放題)ですか？(あてはまるものを1つ選んで下さい。)

*

- はい
- いいえ
- わからない

6. 皆さんがパソコンやスマートフォンを使って「できること」について教えてください。下記の内容それぞれについて、あてはまるものを1つ選んで下さい。質問の言葉の意味が分からない場合には、「できるかわからない」を選択してください。

*

	とてもできるほう	ややできるほう	あまりできないほう	まったくできない	できるかわからない
パソコンのキーボードを使って、ローマ字入力できる	<input type="radio"/>				
パソコンで、キーボードを見ないで文字を入力できる	<input type="radio"/>				
スマホで長い文章を入力できる	<input type="radio"/>				
インターネットで情報を検索することができる	<input type="radio"/>				
Wordでレポート・報告書などの文書を作成できる	<input type="radio"/>				
Excelで計算ができる	<input type="radio"/>				
PowerPointで発表のためのスライドを作る	<input type="radio"/>				
プログラミングができる	<input type="radio"/>				
WEBページを作成できる	<input type="radio"/>				
パソコンでメールを送信したり受信したりできる	<input type="radio"/>				
スマートフォンでメールを送信したり、受信したりできる	<input type="radio"/>				
eスポーツをプレイできる	<input type="radio"/>				

7. 質問6に示した項目以外のもの、パソコンやスマートフォンを使って「できること」があれば回答してください(自由記述)

回答を入力してください

8. 皆さんが高校の授業の中でパソコンやスマートフォンを使って「学びたいこと・できるようになりたいこと」について教えてください。下記の内容それぞれについて、あてはまるものを1つ選んで下さい。質問の言葉の意味が分からない場合には、「学びたいかわからない」を選択してください。(3年次生以上の方は、高校で「学びたかったこと・できるようになりたかったこと」を回答してください。)

*

	とても学びたい	やや学びたい	あまり学びたくない	まったく学ばない	学びたいかわからない
パソコンのキーボードを使って、ローマ字入力すること	<input type="radio"/>				
パソコンで、キーボードを見ないで文字を入力すること	<input type="radio"/>				
スマホで長い文章を入力すること	<input type="radio"/>				
インターネットで情報を検索すること	<input type="radio"/>				
Wordでレポート・報告書などの文書を作成すること	<input type="radio"/>				
Excelで計算すること	<input type="radio"/>				
PowerPointで発表のためのスライドを作ること	<input type="radio"/>				
プログラミングをすること	<input type="radio"/>				

- | | | | | | |
|-----------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| WEBページを作成すること | <input type="radio"/> |
| パソコンでメールを送信したり受信したりすること | <input type="radio"/> |
| スマートフォンでメールを送信したり、受信したりすること | <input type="radio"/> |
| eスポーツをプレイすること | <input type="radio"/> |

9. 質問8に示した項目以外のもので、パソコンやスマートフォンを使って「学びたいこと・できるようになりたいこと」があれば回答してください(自由記述)

回答を入力してください

10. 本学にICT活用パーソナルチューターがいることを知っていますか？

- *
 はい、知っている
 いいえ、知らない

11. ICT活用パーソナルチューターと、話したことがありますか？ 対面・オンラインどちらでも構いません。(あてはまるものを1つ選んで下さい。)

- *
 対面で話したことがある
 オンラインで話したことがある
 対面でも、オンラインでも、話したことがない

12. 本学では、みなさんがもっと学校生活を楽しまたい、勉強したいという気持ちになってもらうために、今後、ICT活用パーソナルチューター(あずさ第一高等学校の卒業生・教職員)と、オンラインで色々なことをおしゃべりしたり、相談したりする取り組みを計画しています。もし、このような取り組みが行われたら、あなたはオンラインでICT活用パーソナルチューターの人と下記の内容について相談したり、おしゃべりしたりしたいと思いますか？ それぞれの内容についてあてはまるものを1つ選んで下さい。

- *

	とても相談してみたい	少し相談してみたい	どちらともいいない	あまり相談したくない	全く相談したくない
将来の進路について	<input type="radio"/>				
授業で分からないところについて	<input type="radio"/>				
家族のことについて	<input type="radio"/>				
学校での心配ごと、困りごとについて	<input type="radio"/>				
学校の友達のことについて	<input type="radio"/>				
学校以外の友達のことについて	<input type="radio"/>				
部活のことについて	<input type="radio"/>				
アルバイト先で困ったことについて	<input type="radio"/>				
パソコンやスマホの使い方について	<input type="radio"/>				
恋愛のことについて	<input type="radio"/>				

13. 質問12に示した項目以外のもので、相談してみたいことがあれば回答してください(自由記述)

回答を入力してください

14. ICT活用パーソナルチューターに相談したくない理由としてあてはまるものをすべて選択してください。

パソコンやスマートフォンの操作が苦手だから

自宅のインターネット環境が十分でないから

自宅は、他の家族がいたり、落ち着いて話せる環境にないから

自分の気持ちをオンラインで説明できる自信がないから

対面で直接先生に会って話した方が相談しやすいから

その他

15. 本学のWEB授業を視聴したことがありますか？(あてはまるものを1つ選んで下さい)

*
WEB授業とは？
「一般通信制スタイル」以外の生徒は、自宅など自分の好きな場所から、自分の好きな時間にスマートフォンやパソコンを使ってWEBで授業動画を視聴できます。わからないことがあれば、「WEBスタイル」の生徒は、質問フォームからWEB授業を作成した先生に質問をすることができます。具体的な授業については、下記のURLにアクセスしてご確認ください。
URL：<https://www.azusa1.ed.jp/style/web-style>

視聴したことがある

WEB授業があることを知っているが視聴したことがない

WEB授業があることを知らない

16. 本学のWEB授業を、今後、視聴してみたいと思いませんか？(あてはまるものを1つ選んで下さい)

*
 はい

どちらともいえない

いいえ

⑦ アンケート結果から（設問1～3、16は割愛）

図4-8より、回答者の内ほぼ全ての者がスマートフォンを所有しており、タブレット端末やパソコンを所持している生徒は少数派であることがわかった。このことから、生徒の所有する端末を使用してICTを活用した学習を行う際は、コンテンツをスマートフォン向けに作成する必要があることがわかった。ただし、本校が生徒に学習用端末を提供する場合はこの限りではない。

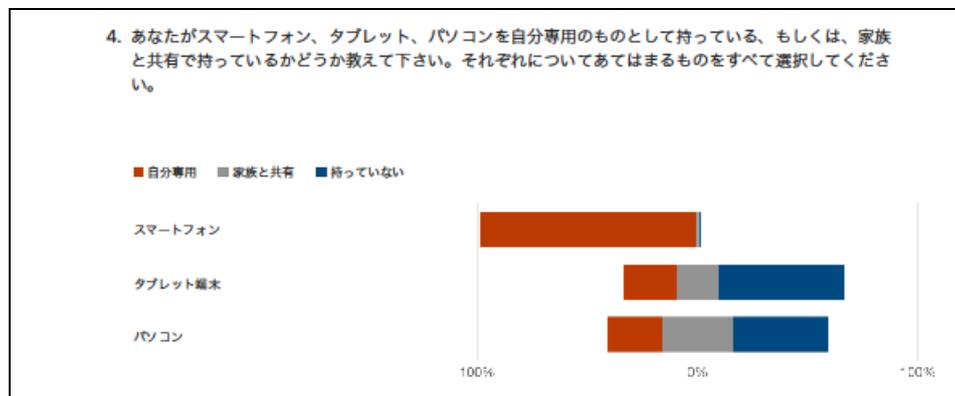


図 4 - 8 使用機器所持の有無

図4-9より、回答者の1割強のものが自宅のインターネット接続環境が十分ではないことがわかった。このことから、自宅から利用することを前提としたICTコンテンツを導入する際はデータ通信量を考慮すべきである。

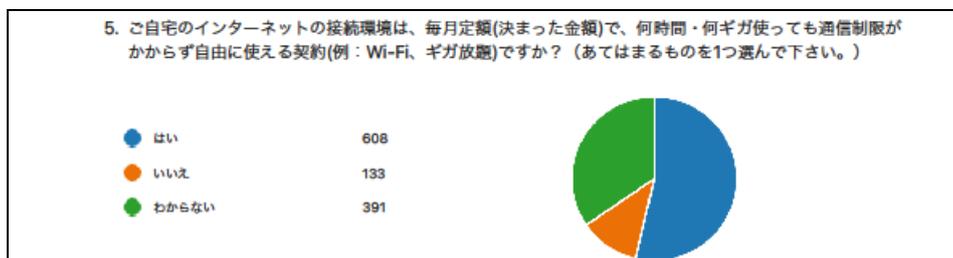


図 4-9 インターネットの接続環境

図4-10より、「スマホで長い文章を入力すること」を除いた全ての項目で、「とても学びたい」または「やや学びたい」が過半数を占めた。このことから、授業でICTを活用した場合、多くの生徒の興味・関心を惹くことを期待できるといえる。

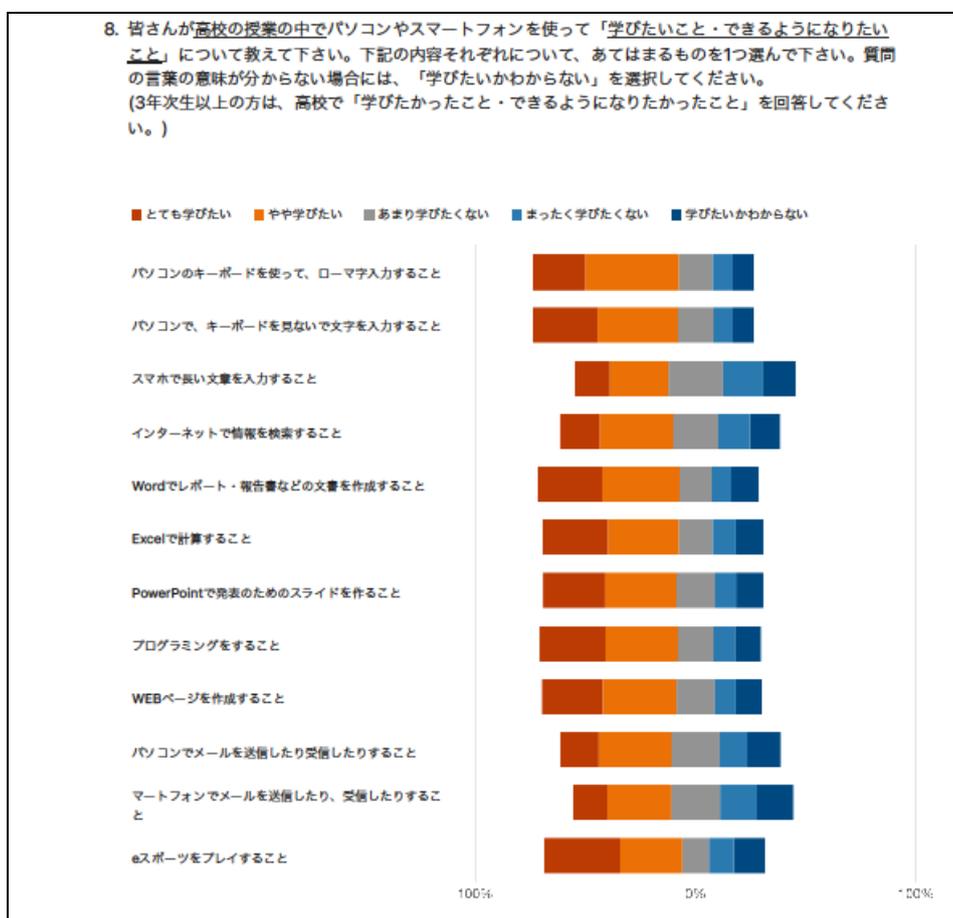


図 4-10 PC やスマホで学びたいこと・できるようになりたいこと

図4-1-1より、回答者の内多くのものが本校のICT活用パーソナルチューターを認知していないことがわかった。今後どのように生徒に周知していくかが課題である。

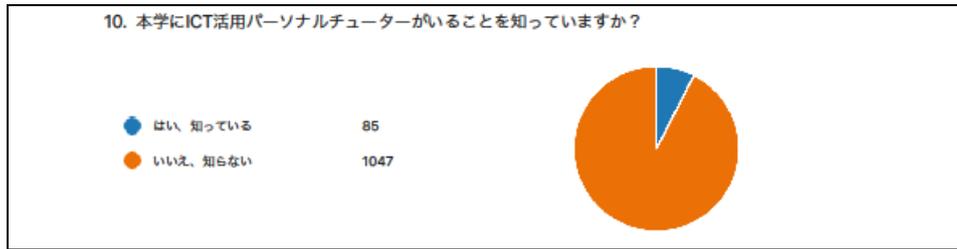


図 4-1-1 ICT活用パーソナルチューターへの認知

図4-1-2より、回答者の内多くの者がICT活用パーソナルチューターに相談することに対して消極的であることがわかった。ただし、図4-1-1からもわかる通り多くの回答者が本校のICT活用パーソナルチューターを認知していないことが原因の可能性もある。そうであった場合、今後ICT活用パーソナルチューターの存在が生徒に浸透した上で改めてアンケートを実施すれば結果が変わることを期待できる。

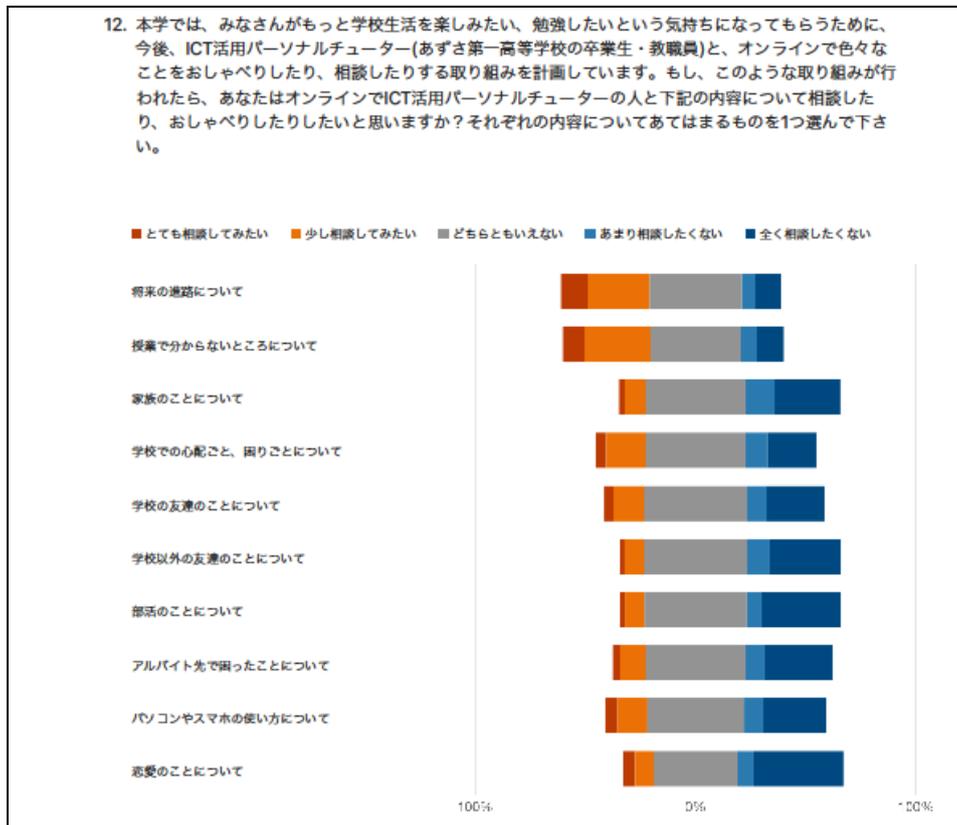


図 4-1-2 ICT活用パーソナルチューターに期待すること

図4-13より、ICT活用パーソナルコンピューターに相談したくない理由として最も多く回答されたものは「対面で直接先生に会って話した方が相談しやすいから」だった。これは、本校の対面教育が充実していることの裏返しといえる。次点で多かった「自分の気持ちをオンラインで説明できる自信がないから」については、対面と空気感が異なることや時間を決めなければいけないこと等の様々な要因が考えられるため、一概に何が原因とは断定できない。その他の自由記述では「なし」や「無い」といった相談すること自体に消極的な回答が多かった。

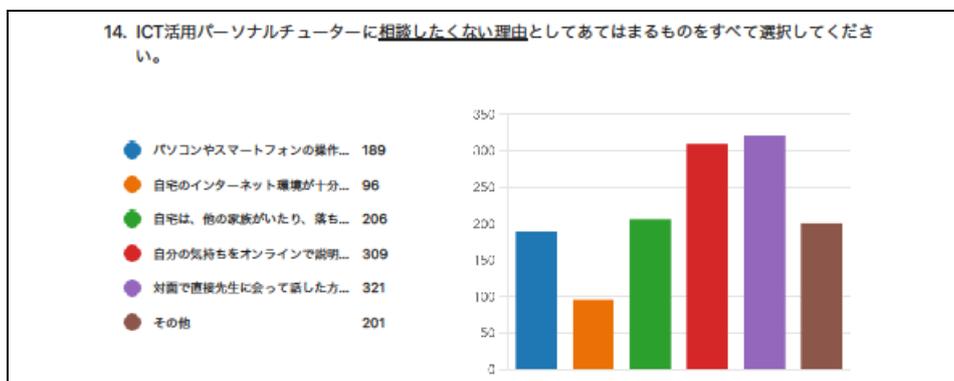


図 4-13 ICT活用パーソナルコンピューターに相談したくない理由

図4-14と図4-15はそれぞれ8キャンパスと高等専修学校3校の回答結果である。WEB授業動画の平均視聴回数は平均10回にも満たないためほぼ全ての生徒が視聴していないはずである。高等専修学校3校の回答では145名が「視聴したことがある」と答えているが、回答者が高等専修学校3学校で独自に配信しているオンライン授業と混同したものと考えられる。

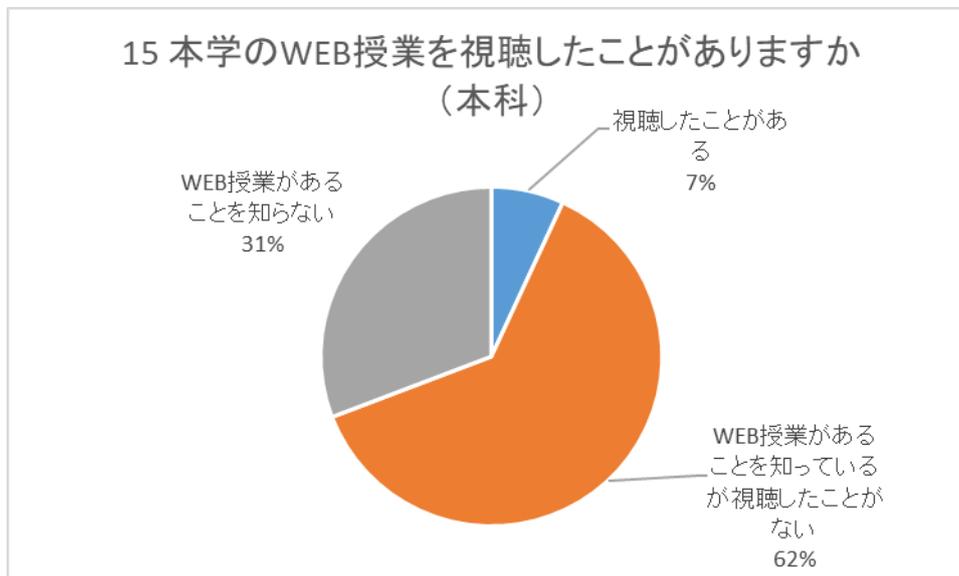


図 4-14 本学 WEB 授業の視聴経験の有無 (本科)

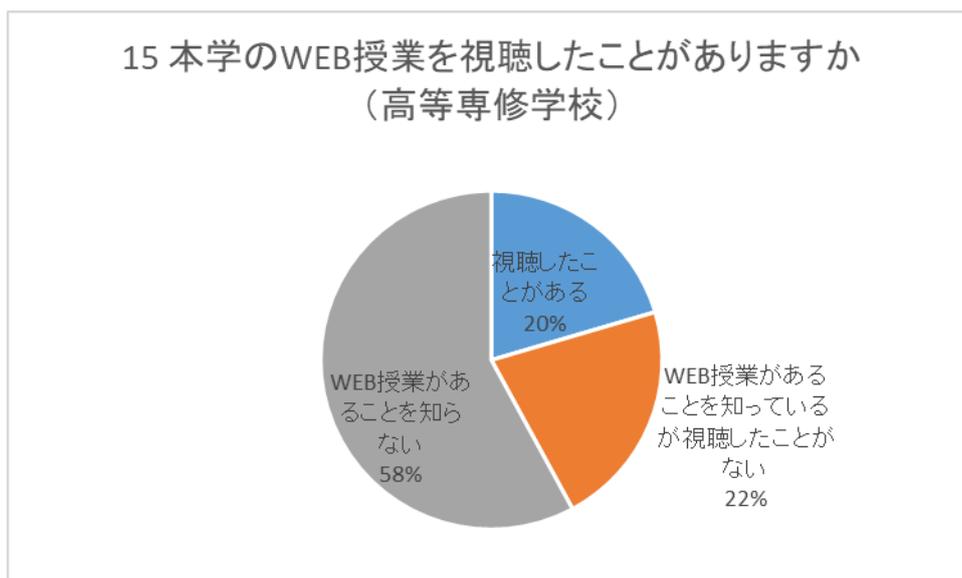


図 4-15 本学 WEB 授業の視聴経験の有無 (高等専修学校)

以上を踏まえると、生徒に対し、パーソナルチューターや WEB 授業動画の存在を十分に周知することを前提に、今後の運用を考案することが課題であるとわかった。

5. 心理的支援

この心理的支援では、昨年度、令和3年度に文部科学省より事業受託した「多様性に応じた新時代の学びの充実支援事業」からの継続的な調査研究を行ったものをまとめた。

目的

昨年度は、ICT 活用パーソナルチューターやスクールカウンセラー（以下、SC とする）が数回行ったオンラインカウンセリングにおいて、“学校に対して苦手意識を持っていた生徒にも、オンラインカウンセリングを用いることでサポートにつなげやすい可能性を見出した。また生徒の満足度も十分に確認することができた。”という結果を導くことができた。当校には SC が常勤、非常勤職員合わせて 11 名配置されている。昨年度の結論を踏まえて、当校 SC がオンラインカウンセリングを実施できれば、より多様性に応じた学びの支援が可能となるだろうと考えた。よって今年度は、当校 SC がオンラインカウンセリングを実施することで、従来当校で行っていた対面でのカウンセリングの代替として活用できるか検討した。

実践

(1) 事前準備会議

実施日時：令和4年9月28日14時～15時半

場 所：オンライン (Microsoft アプリ Teams ビデオ通話機能活用)

参 加 者：SC 有志7人

内 容：研究の主旨、実施期間、回数、面接時間、オンラインカウンセリングを始める前の手順について確認した。

また1月の事後会議（目的：オンラインカウンセリングでのルール作り）では、以下の点でも話し合えるといいだろうとした。

事後会議で話し合えるといい点

- ・カメラのオンとオフでの違い
- ・家だと話しづらくないか、自室でも守秘を保ちつつ話ができるか
- ・オンラインカウンセリングの時間は30分では短いか
- ・予約時間になって呼び出ししても、生徒や保護者が応答しなかった時の対応
- ・SC側の都合でオンラインカウンセリングができなかった場合の対応

(2) オンラインカウンセリングの実践

各SCがそれぞれの生徒に下記手順で実践した。

- ①オンラインカウンセリング研究協力をチラシを用いて説明する
- ②オンラインカウンセリングの同意書をもらう
- ③Microsoftのアプリ Teams をダウンロードしてもらう
- ④オンラインカウンセリング予約日時を決める
- ⑤オンラインカウンセリングを実施する

当校SC11人の中から、有志5人が、それぞれ1回以上オンラインカウンセリングを実践した（表5-1）。

表5-1 オンラインカウンセリングの実践日

実施SC	対象者	実施日	使用機器(カメラオン・オフ)
宮崎汐莉	生徒A	R4年11月1日	PC (カメラオン)
宮崎汐莉	生徒A	R4年11月9日	スマホ (カメラオフ)
西館奈津子	生徒B	R4年12月15日	PC (カメラオン)
長森麻記子	生徒C 保護者	R4年12月16日	PC (カメラオフ)
大砂絵里奈	生徒D	R4年12月23日	スマホ (カメラオン)
山口芙美音	生徒E	R4年12月24日	スマホ (カメラオン)

オンラインカウンセリングを1回30分間で行うことは統一した。回数は、対象者の希望やカウンセリング内容により、週に1回以上間隔を開ければ、委託事業期間内で複数回実施することは可能とした。

それぞれの生徒 A～E の被験者情報は下表 5 - 2 に示す。

表 5 - 2 被験者情報

	被験者情報
生徒 A	高校 1 年生男子生徒。学外カウンセリングセンターのカウンセラーと共に 2 か月に一度程度相談室来室をしていた。IT 系統が得意な本人に当校オンラインカウンセリング導入にあたって、一緒に使用感等検討してもらえるよう SC が本人・保護者・学外カウンセラーに打診をして了解後実施。2 度目の実施時、オープンエンドとなり実施期間満了となった。
生徒 B	高校 3 年生女子生徒。高校 2 年より廊下や教室で SC と頻繁に話をしてきた生徒で、面接は 1 度雑談程度の内容のみ。後輩へのピアカウンセリングの役割を担っていた経緯もあり、相談室の活動に関心が高かった。オンラインは、「導入への検証」という目的を説明し、SC から声を掛けた。
生徒 C と保護者	生徒 C は高校 3 年生女子生徒。生徒 C とは 1 年生の初期から、本人と母とそれぞれ別々にカウンセリングを実施していた。月に 1 回の頻度で面接を行い、学校と家庭での様子を共有し、生徒本人の成長を促す目的で面接を行っていた。今回のオンラインカウンセリングは SC から生徒 C の母に、回数を 1 回と限定して打診した。
生徒 D	高校 2 年生女子生徒。オンラインカウンセリングの研究のため、比較的安定している生徒を CP 長から推薦してもらった。担任を通して、オンラインカウンセリングについて説明してもらい、カウンセリングへの協力依頼を行った。入学してから一度だけ、本人が不安定になった時に、相談室を利用した経験があった。オンラインカウンセリングを実施した SC とは初対面。お互いに自己紹介から始め、近況やアルバイト、クラスの友人への関わり方、将来の夢などについて語ってもらった。家だとリラックスして話せるのが良いとも感想をもらった。
生徒 E	高校 3 年生女子生徒。3 年間で対面カウンセリング利用はなし。以前から福祉職へ興味を持ち大学進学を決めていたこと、安定した登校率からも健康度の高さもうかがえ、安全に実施できると考え、協力依頼をした。当日は雑談をしつつ、今までの学校生活を振り返った。その中で、人間関係の立ち振る舞い方についての悩みが話され、可能な範囲でアドバイスをした。本人は、自宅に居ながら話せることを気に入り、継続を希望。後日本人から希望日を連絡もらうことになっていたが、連絡ないまま卒業を迎えることになった。

⑥生徒にオンラインカウンセリングの感想を Microsoft のアプリ Forms で求めた。

(3) 事後会議 I

実施日時：令和 4 年 1 2 月 2 0 日 1 1 時 3 0 分～1 2 時 1 5 分

場 所：あずさ第一高等学校 渋谷キャンパス

参加者：SC 1 1 人

(4) 事後会議Ⅱ

実施日時：令和5年1月19日 13時～14時

場所：あずさ第一高等学校 渋谷キャンパス

参加者：SC9人



写真5-1 事後会議Ⅱ

事後検討会議ⅠとⅡの内容：

オンラインカウンセリング実施後の感想を共有し

た。それぞれのSCが語った感想は下表5-3にま

とめた。またオンラインカウンセリングを導入する

にあたっての検討事項、オンラインカウンセリングのメリットとデメリットを話し合った（下表5-4、5-5）。

表5-3 実施者の感想

宮崎	オンラインカウンセリングは登校が難しい生徒とつながれるチャンスとなり、学校の情報提供をするきっかけにもなると思う。対面カウンセリングと違うのは「次会えた時に」というつながり方ができないところだと思った。今後、実際にオンラインカウンセリングを実施する場合は登校のある生徒を対象にしていくと、オンラインカウンセリングで起こりやすいとされているリスクを減らせるかもしれない。
山口	当日は滞りなく実施することが出来た。途中画面がフリーズすることもあったが、困ることはなかった。生徒は自室でリラックスして話せていた印象。30分間は、想像よりも短く感じ、お互い打ち解けてきたときに終了になったが、話を深めすぎないために良い時間設定だと思う。精神的健康度の高さから直接相談にはつながりづらい生徒や、相談室通いを周りに知られたくない生徒と繋がるのにも有効そう。生徒にTeamsを開通してもらうまでの手続きで、写真付きの操作手順書を渡せたらよりわかりやすいか。
西舘	対面カウンセリングは1時間が通常だが、オンラインカウンセリングでは1時間だと長すぎるんじゃないかと思った。ビデオオフすると、表情やしぐさなどの情報がない中で、話は集中できると思う。しかし、その分、疲れるかもしれない。今回やった生徒はその点は不安はなかったが、言葉の少ないタイプだと話をふってしまうかもしれない。
大砂	<ul style="list-style-type: none">・オンラインカウンセリングの実施までの手続き（アカウント取得など）が大変だったので、その手続きに今後工夫が必要だと思った。（アカウント取得までの手順書を画像つきで渡す、オンラインカウンセリングを始める際には一度学校で会ってから、一緒に手続きを行う等）・今回は精神状態が比較的安定していると思われる生徒だったので、手続きなどが大変でも、なんとか実施にたどりつけたと思う。初対面の生徒であったが、比較的スムーズに面接できた。生徒も自宅だったので、リラックスしている様子だった。お互いに慣れてくれば、より、気持ちもつながりやすくなると思った。

	・フォローアップの時期の生徒には、オンラインという形をとれば、カウンセリングを提案しやすくなると思った。
長森	3年間母子別々にカウンセリングしていたケースの母に1回（母は顔出しなしで）面接。もともとの関係性があったので、対面カウンセリングとの差異を大きく感じなかった。母より、アンケートにサインインできない時に父がサポートしてくれたと伺った。

表5-4 検討事項と話し合った結果

検討事項	話し合った結果
オンラインカウンセリングについての説明と同意書	オンラインカウンセリングの説明は必要。対面カウンセリングとは異なるので、どういうものを生徒に知ってもらってから実施できた方が、生徒、SC双方にとっていいと思う。同意書の部分だけ削除する方向となった。カウンセリング申込の時に、住所や名前を書き入れてもらう申込用紙への記入をお願いするので、その時に一緒に説明できるといいだろう。Teamsダウンロード手順の用紙にカウンセリングの一文入れること希望。
カメラのオンとオフでの違い	（実施後の感想）カメラオンだと家の様子が見えた。生徒によってはルームツアーしてくれ、面接内容は広がりがあった。マスクを外した素顔が見られた。カメラオフにすると、電話と変わらなくなる。オフにしても十分情報が取れると思う。生徒側に見られない安心感ある。 （今後の方針）来年度はカメラオンのみとする。まだ試行段階なので、安全にオンラインカウンセリングを実施することに注力したい。カメラオフでも十分情報が取れるならば、まずはオンでもオンラインカウンセリングを受けたいという精神的健康度の高い生徒を対象とする。
家だと話しづらくないか。守秘を保ちつつ話ができるか。	●SCがPCの前にいるか、出勤しているかというのが生徒側にわかってしまう。そのため、精神的な不安定さを抱える生徒は、SCがすぐ返信できないと「SCはPCの前にいるのに、なんで返信してくれないんだろう、既読にならないんだろう」と思う可能性がある。SC、生徒両者にとって良くない結果となるかも。 ●電話で話を聞いていた生徒は、守秘を保てないと、公園に行って電話して話してくれる生徒もいた。聞かれたくないときは他の場所を選べるかも、事前に聞いておくと、実際オンラインカウンセリングするときにスムーズかもしれない。守秘を保てないという生徒には、安全な場所を一緒に考えるところから話し合えるといいかも。守秘が保てないなら、登校して対面カウンセリングを促したい。 ●Teamsのチャット機能の制限も必要ではないか。チャットで相談を受けないようにする。予約の変更などの業務連絡以外はチャットでの対応をしない。

オンラインカウンセリングの時間は30分間は短いかな	初めて話す場合は、30分でちょうど温まった感じで、もう少し時間があつたら、深められたかと思う。ただ30分間は適切。枠は短めにとってもらって、面接回を重ねた方がいいかな。
予約時間に生徒が応答しなかった時の対応	対応は説明同意書に書かれているルールに則る。アラート設定は自由とする。
SC側の都合でオンラインカウンセリングができなかった場合の対応	SCから10分経っても連絡がなかったら、キャンセルと見なしてほしいということを一統する。
Wi-fiが繋がらないキャンパスでの実施	SC室にWi-fiが繋がらないキャンパスではオンラインカウンセリングなし。別室では実施しない。
実践までに必要な準備	Teamsダウンロード、接続の確認を実践までにしておきたい。生徒用に、写真付きの手順書があるとわかりやすいかもしれない。∴今回、保護者へのメールの確認し忘れがあったため。
対象とする生徒像	精神的健康度の高い生徒で、オンラインカウンセリング中、ビデオオンできる生徒に限定する。途中で不登校になったとしても、SCとの関係性は構築できていると判断し、対象条件に不登校かどうかは言及しない。そうすれば、コロナで来られなくなったが、ゆくゆくは対面に行けそうな生徒は対象にできる。試験導入のため、安全性を第一優先としたい。オンラインカウンセリングは半構造化面接で枠を決めた方がいいかな。質問内容についても質問集の作成をしたい。オンラインカウンセリングの申込があっても対象外となった場合の、断り方についても、配慮ある対応をしたく、今後検討したい。

表5-5 オンラインカウンセリングのメリットとデメリット

オンラインカウンセリング メリット	<ul style="list-style-type: none"> ●つながりが切れている生徒への支援の選択肢が広がる ●家でリラックスして話すことができる ●相談への敷居が低くなる ●他の生徒の目を気にしなくて済む ●マスク外して話せる（素顔が見られる） ●家の様子を伺う、雰囲気を知るチャンスにもなる ●感染症の心配がない ●場所にとらわれず、時間的な融通が利きやすい（特に保護者など） ●生徒が学校へ来る必要がないので、スケジュールが他にあっても（バイトとか）予約を入れやすくなる。 ●カウンセリングのフォロー段階に導入しやすいのかな。
----------------------	--

オンラインカ ウンセリング	●通信環境が整わないと、安心してカウンセリングできない ●内省的な深い面接ができない
デメリット	●SC側も不慣れ オンラインカウンセリングの研鑽機会がない ●間や表情などが読み取りづらい ●生徒側が必要ないと思うと、関係性が途切れてしまう ●物理的な介入ができない（自殺企図や自傷対応など） ●カウンセリングのために登校していた生徒が、来なくなる可能性 ●学校の中でネットがつながる場所をSCがその都度、探すのは大変

結果と考察

(1) 生徒にオンラインカウンセリングの感想を Microsoft のアプリ Forms で求めた。以下、設問毎に、結果をまとめる。

設問 1

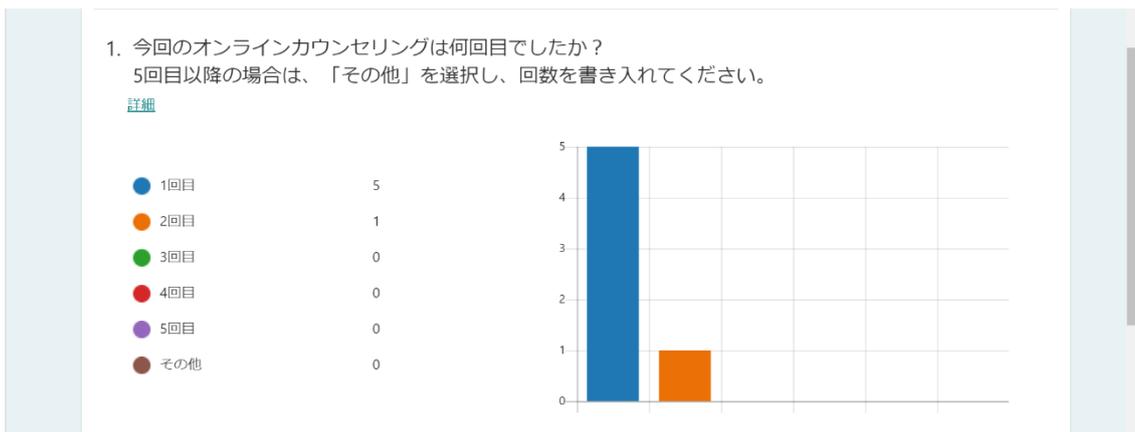


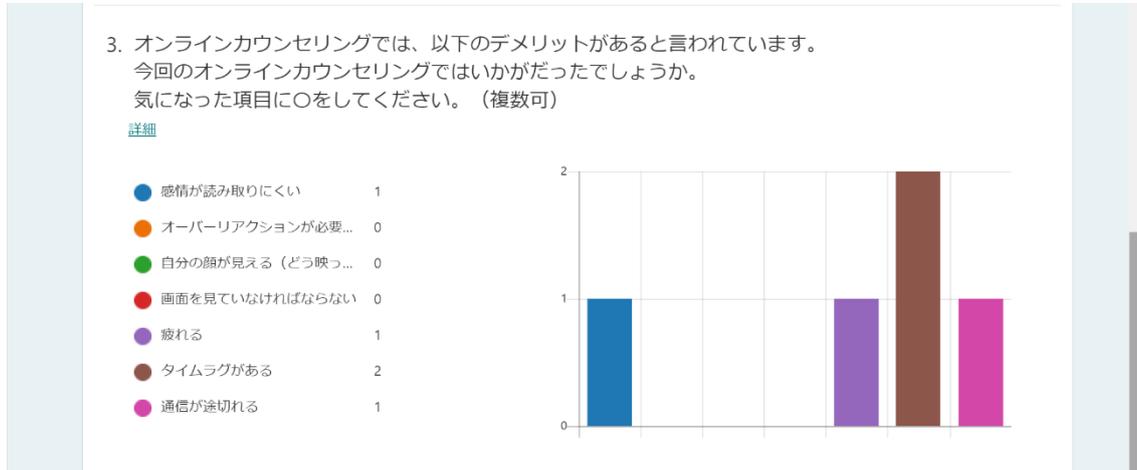
表 1 にも記したが、オンラインカウンセリングを 1 回実施したのは 4 人、2 回実施したのは 1 人であった。オンラインカウンセリングに参加した被験者は、延べ 6 人であった。

設問 2



オンラインカウンセリングは「話せた」と回答した人が述べ6人、「話せなかった」と回答した人は0人であった。オンラインであってもカウンセリングの満足度は十分であると言えた。

設問3



オンラインカウンセリングでのデメリットは先行研究より、「感情が読み取りにくい」「オーバーアクションが必要」「自分の顔が見える(どう映っているか気になる)」「画面を見ていなければならない」「疲れる」「タイムラグがある」「通信が途切れる」が挙げられている。今回のオンラインカウンセリングでは「感情が読み取りにくい」が1人、「疲れる」が1人、「タイムラグがある」が2人、「通信が途切れる」が1人(いずれも延べ人数)であった。

設問4



オンラインカウンセリングを今後も「受けてみたい」と回答した人は5人、「受けてみたくない」と回答した人は1人であった。この詳細を見てみると、「受けてみたくない」と回答したのは2回オンラインカウンセリングを実施した被験者であった。他の被験者は「1回オンラインカウンセリングを実施してみないか」という案内であったが、この被験者のみ、回数を限定せず「次回はどうか」と聞きながらオンラインカウンセリングを実施した生徒ではあった。そのため、次回の約束に至らなかった際に「受けてみたくない」との回答を行ったと推察された。よって、1回しかオンラインカウンセリングを実施しなかった被験者は、みな今後もオンラインカウンセリングを「受けてみたい」と回答したと言えた。

設問 5

5. そのほか、気になったことがあれば、教えてください。

詳細

1
応答

最新の回答
"意思の疎通がしにくい"

今回のオンラインカウンセリングで、上記の質問で回答しきれなかったことを回答してもらった質問では「意思の疎通がしにくい」と1人が回答していた。この被験者は、オンラインカウンセリングでのデメリットとして「タイムラグがある」「通信が途切れる」と回答していた。詳細は該当被験者に聞いてみないと不明ではあるものの、今後もオンラインカウンセリングを「受けてみたい」と回答していることから、「タイムラグがある」「通信が途切れる」というデメリットが「意思の疎通がしにくい」という感想につながったのではないかと推察された。

(2) オンラインカウンセリングのルール

令和4年度は令和3年度に使用した下記の留意事項をルールとして説明し、同意書にサインしてもらうまでを、オンラインカウンセリングの実施前の手続きとして統一した。

オンラインカウンセリング (Teams) についての説明と同意書	学校法人野田鎌田学園
オンラインカウンセリング (Teams) での面接は1回30分とします。その他、対面カウンセリングと違って様々な課題があり、利用する生徒本人、保護者の皆様にもお願いしたい事項があります。下記の留意事項を確認し、同意いただける場合は、口にチェック☑し、同意書に署名をお願いします。ご不明な点は遠慮なさらずにカウンセラーにご質問ください。	
記	
留意事項	
<input type="checkbox"/> オンラインカウンセリングは対面カウンセリングと異なり、面接は1回30分とします。その他、同等のものを提供できない場合があります。	
<input type="checkbox"/> オンラインカウンセリングでは、自宅 Wi-fi の利用を推奨します。ネット環境によっては、通信料がかかる場合があります。通信料金体系を確認し、想定外の料金請求がないことを確認してください。	
<input type="checkbox"/> Teams はセキュリティが完全とは言えない部分もあり、情報漏えいなどのリスクがあります。そのため、不特定多数の者が利用可能な公衆無線 LAN の使用は控えてください。できる限り、プライバシーが守れる、安全で適切な環境で利用してください。	
<input type="checkbox"/> オンラインカウンセリングの録画、録音、撮影は許可を得てください。	
<input type="checkbox"/> 本人以外の人を同席させる場合も許可を得てください。カウンセラー側も同席はしません。	
<input type="checkbox"/> Teams の技術的な問題により、カウンセリングが中断、遅延することがあります。接続ができない場合は、カウンセラーから下記の電話番号に電話をかけます。	
<input type="checkbox"/> カウンセラーがオンラインカウンセリングを適切でないと判断した際には、他の方法（電話等）に変更したり、本人の同意を得た上で、適切な他の機関を紹介したりする場合があります。	
<input type="checkbox"/> 自傷他害を起こす可能性が高いと、カウンセラーが判断した場合は、家族・他の教職員・警察等に連絡する場合があります。その場合でも、できるだけ本人の同意を得るように努めます。	
<input type="checkbox"/> 予約時間にあらかじめ Teams を立ち上げておいてください。接続ができない場合は、電話やメールで連絡を取ることがあります。予約時間から10分経っても連絡がつかない場合は、オンラインカウンセリングの予約はキャンセルになります。	
以上	
同意書	
上記の説明を読んで、全ての留意事項について承諾しました。	
署名年月日：令和4年 月 日	
生徒氏名：	電 話：
保護者氏名：	

オンラインカウンセリングを試行した結果、

- 留意事項について：紙面を用いて上記の留意事項を説明することで、オンラインカウンセリングがどういうものかを伝える機会にもなる。来年度もそのまま用いたい。
- 同意書について：カウンセリング申込の際に、住所や電話番号を聴取しているので、住所や電話番号は削除。同意承諾の保護者氏名にはサインはいただく。

考察

令和3年度に行った“学校に対して苦手意識を持っていた生徒にも、オンラインカウンセリングを用いることでサポートにつなげやすい可能性を見出した。また生徒の満足度も十分に確認することができた。”という結果は、令和4年度に複数のSCが実施しても、同様の効果が認められた。また、留意事項を遵守してもらい、ビデオオンでオンラインカウンセリングを受けることができる生徒や保護者を対象とするなどの工夫を行えば、さらに安全に遂行できると確認できた。来年度は学園の全SCでオンラインカウンセリングを試行し、本格的な導入を目指したい。

IV まとめ・今後の課題

本事業に対する本校職員の関心度は、アンケート調査によると、設問「ICT活用パーソナルチューターに期待しますか？」に対しては、81%が「はい」を選択している。期待する内容では、特に、「学校生活」への支援期待が高くなっている。

令和5年度は、特にこの分野での導入に力点を置く予定である。

オンラインカウンセリングについて、複数のSCが実施して、前年度同様の効果が認められた。留意事項を遵守すれば安全に遂行できると考えている。

令和5年度は学園の全SCでオンラインカウンセリングを試行し、本格的な導入を目指したい。

また、専用パソコンのコミュニケーションツールを使用して、各学習支援施設所属の生徒とICT活用パーソナルチューターとの交流の試行を進めることができた。試行実施後、インタビュー調査として得られた成果として、

- ・「画面越しの方が話しやすい」
- ・「中学校に通えていなかった（2人）が、色々な事を話してくれたり、質問してくれたりして会話が弾み、あっという間に時間が過ぎた印象」
- ・「定期的にやりたい」
- ・「WEBを使った交流したい、かなりの好感触が返ってきた」
- ・「かなり、話したりない感じ」
- ・「他の生徒の参加を考えている」

等が、新たに得られた成果として注目している。

令和5年度は、本校に配備される生徒使用可能なパソコン台数が増大する予定である。令和3年度・4年度で試行してきた経験やアンケート結果をもとに、各所属での試行を深めることにより、メリットだけでなくデメリットをも把握して総合的な検証を行う予定である。

本研究を進めるにあたり、江戸川大学玉田和恵教授には、様々な的確なアドバイスをいただき、試行錯誤の多い中、将来への方針をご教示いただきました。深謝申し上げます。

引用参考文献

- ・加藤のぞみ,三重県臨床心理士会.感染拡大下での臨床心理相談体験に基づく継続支援の工夫について.臨床心理士報 vol.33 No.1 2022,1,25-41
- ・河野俊寛日本における読み書き障がいのある子どもへの ICT を活用した支援の現状と課題.LD 研究,第 30 巻第 4 号 2021,11.283-287
- ・山川裕樹,一般社団法人京都府臨床心理士会.コロナ禍における学生相談機関とその連携に関する研究,臨床心理士報 vol.33 No.1 2022,1.42-54

文部科学省初等中等教育局委託事業

令和 4 年度「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

高等学校通信制課程における、生徒の ICT 活用支援体制の構築

～ICT 活用パーソナルチューター導入による効果の検証～

成果報告書

(編集・発行者)

学校法人野田鎌田学園 あずさ第一高等学校

〒278-0037

千葉県野田市野田 405-1

電話 04-7122-2400

FAX 04-7125-8115